九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

河東訪碑行報告

井黒, 忍
早稲田大学

舩田, 善之
九州大学大学院人文科学研究院

飯山, 知保
早稲田大学

小林, 隆道
早稲田大学

https://doi.org/10.15017/25865

出版情報：九州大学東洋史論集. 38, pp.1-37, 2010-04-30. 九州大学文学部東洋史研究会
バージョン：
権利関係：

河東訪碑行報告

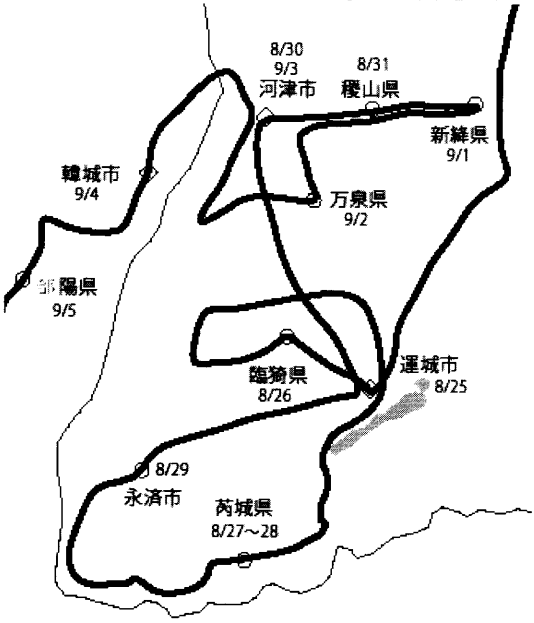
井黒　忍・船田　善之
飯山　知保・小林　隆道

はじめに

2006年8月25日（金）から9月6日（水）までの計13日間の日程で山西省西南部（河東地域）における金元時代の現存碑刻調査を実施した。参加メンバーは船田善之・飯山知保・小林隆道・井黒忍の4名である。

まず，船田・井黒が運城市を皮切りに臨猗・芮城両県の調査を行った後，8月29日に永済市にて飯山・小林と合流し，稷山・新絳・万栄の諸県および河津市の調査を行った。さらに，帰着地点である西安市に至る途中の韓城市および邵陽県においても調査を行った［下図参照］。

山西省における我々の訪碑行は今回で3度目であり(1)，河東地域に関しても2002年に運城市・芮城県を訪れている。但し，当時の調査を振り返ると，事前の準備不足に加え，調査方法・装備の面でも不備が目立ち，調査成果としての現存確認目録にも多くの問題を残した。



そのため，前回調査時の不備を補うとともに，河東地域の悉皆調査を目指して今回の調査ルートを設定した。事前の準備作業としては，前回の調査時には実見できなかった［三晋運］などから現存が確認されている金元時代の碑刻資料をリストアップするとともに，加えて歴史的建築物や新出文物の調査報告等を取りまとめた(2)。

全行程を通して確認した金元碑は計92点に上る。なお，芮城県永

楽宮など2002年時にも訪れた地点に関しては，［飯山知保・井黒忍・舩田善之2002］を併せて参照されたい。（井黒）

行 程 日 誌

8月25日（金）運城　曇時々雨

9:30，宿泊先の郁金香酒店で山西省運城市文物局副局長の李百勤氏の来訪を受け，調査への協力を快諾頂く。李副局長は会議のため調査に同行することはできないとのことであったが，代わりに運転手に我々の調査希望地の内，市内の関王廟・池神廟への案内を委ねられた。

9:45にホテルを発ち，10:00に運城関王廟（関王廟文物管理所）に到着。同廟は塩湖区博物館を兼ねており，運城市内の各地から石刻が集められている。碑廊に並ぶ石刻の中には，ひときわ巨大な唐貞元13年（797）「大唐河東潮池霊慶公神祠頌」(3)や明万暦25年（1597）「河東塩池之図」が見える。「河東塩池之図」には呉楷撰「南岸採塩図説」が附され，塩池全景とそこで働く人々の様子や建造物の配置などが写実的に描かれる。同碑の横にも「河東塩池之図」が置かれるが，摩滅の状態から考えてこちらが原碑であろう。また，宋大観2年（1108）「大観聖作之碑」のみは碑亭に別置され，その前には香炉が置かれ信仰の対象となっている。

金元碑としては，別棟の軒下に至大3年「重修文廟碑記」【1-7】，延祐5年「十儒従祀之記」【1-8】が立つ。いずれも壁際近くに立てられるため，碑陰全体を見ることはできなかったが，隙間から覗き見た限りでは前者には刻字が確認できた。その他にも塩池関係の清碑や武周垂拱年間の仏龕碑なども存在したが，あいにくの雨天のため30分ほどで調査を切り上げる。

関王廟から5分ほどで池神廟（河東塩業博物館）に到着。思い返せば，2002年の調査時には参観が叶わず，遠目に眺めるしかできなかった思い出の地である。あれから早4年の月日が流れたかと思うと感慨も一入であるが，思い出に浸る間もなく運転手に誘われ廟内に入る。まずは，館長の李竹林氏に面会し，我々の調査の趣旨を伝える。李館長は気さくに我々を迎え，小雨の降る中にも関わらず廟内の碑刻を一つ一つ解説してくれた。

戯台南側の碑林に至元27年「解塩司新修塩池神廟碑」【1-4】（碑陰は「建置塩司歴年増課記」【1-15】）が見える。同碑には保護ケースが被せられるが，これにより首行の主題部分が隠れてしまっている。また，大徳3年「勅封広済恵康王碑」【1-5】および「勅封永沢資宝王碑」【1-6】にも保護ケースが附されるが，こちらはケースの周囲を取り囲む鉄枠が錆付き，錆と汚れによって碑面の文字を読み取ることすら困難である。後者の碑陰には恐

らく立石関係者であろう人名が刻字されるが，その文字はいずれも何者かの手によって削られており判読不能である。

元統2年「勅賜御香瑞塩碑誌」【1-11】（碑陰に題名）は，乾隆10年（1745）の詩碑とともにセメントで固められ保護ケースに入れられる。その他，至正7年「塩池神御香記」【1-12】にも保護ケースが被されており，元碑のみが選択され保護されていることが分かる。現館長の李氏を含めた関係者の見識に感服する一方，塩池を間近にひかえた同廟における塩害の厳重さを痛感した。李館長の説明によれば，戯台の軒下に置かれた石材が2003年に戯台の下から出土した新資料である。表面には「至正十年十一月十九日置到石槽一条石匠李信」の文字が刻まれる。

戯台下の甬道を抜けて饗殿の前に出ると，ほぼ同型の2基の碑が東西に相対して建つ。西側が至治元年「大元勅賜重修塩池神廟之碑」【1-9】，碑陰題名にはテムデル，バイジュ以下，中央政庁から県に至る各衙門のトップの顔ぶれが並ぶ。一方，東側に立つ碑刻は明嘉靖14年（1535）「河東運司重修塩池神廟碑記」である。ほぼ同寸法の明碑は大元ウルスに肩を並べんとする意識を反映したかにも見える。或いは明代に元碑を再利用した可能性も考えられる。現在のシンメトリックな配置は清代以降の改変を経たものであるが，明代にいかなる石碑の配置がなされていたのか興味深い。

11:20，雨も本降りになってきたため池神廟の調査を切り上げる。その後，李館長の事務室でしばし歓談。李館長の提案・紹介により［三晋運］の主編を務めた，運城の石刻研究第一人者である呉鈞氏との面会の約束を取り付ける。ホテルに戻った後，約束の時間にはまだ余裕があったので河東博物館を参観することにしたが，到着した13:00にはまだ博物館は閉まっていた。

14:00，再び池神廟を訪れる。館長はまだ不在であったため，廟内を再び参観する。既に雨はあがり，午前中に見た碑林と神殿前の元碑をゆっくりと見ることができた。さらに，敷地南側の高台に登り塩池を遠望する。そこから眺めた塩池はうっすらとかかるもやの中にかすみ，幻想的な雰囲気を醸し出していた。

15:00，自転車で戻られた李館長とともに池神廟を発ち，15:20に河東博物館にほど近い呉鈞氏の自宅に到着する。呉鈞氏には初対面であるにもかかわらず，我々の質問に対して該博な知識を惜しげもなく披露して頂いた。特にせきを切ったように流れ出す碑刻調査の話には圧倒され通しであった。氏の調査成果の一端は自宅のそこかしこに貼られた写真や図版からもかいま見られ，我々の今後の調査に関してもご協力頂けることとなった。

呉鈞氏との面会を終え，李館長とともに三家庄村に向かう。その前に先ほどは閉門していた河東博物館を参観するも，同館には石刻は現存せず，

運城市内の名所や古跡の写真パネルが並べられるだけであった。博物館前よりタクシーに乗車し，16:10に三家庄郷三家庄村に到着。車内で同村が李館長のご夫人の出身地であることを告げられる。その言葉通り，迷うことなく路傍の大定4年「解州安邑県三家庄慈雲院碑記」【1-1】の前に到着する。上截には尚書礼部牒【1-2】，下截には牒文受給に至る経緯を記した記文が刻される。碑陰には題名および至正14年「重妝聖像記」【1-14】が刻される。いつものことながら，気づけば我々の周りにはたくさんの村人が集まっていた。その中に李館長の知人でもある村長の姿もあり，話によれば，同碑は村外（慈雲院遺址）に置かれていたが，1960年代に現在の場所に移されたという。

16:30，ますます混み合う人だかりを抜け出し帰路につく。15分ほどで出発地の河東博物館前に到着し，お世話になった李館長と再会を期して分かれる。17:40，ホテルに帰着。（井黒）

8月26日（土）　運城－臨猗－運城　曇

9:30，ホテルを出発し，タクシーで臨猗汽車新站へと向かう。10:10，同站附近にてタクシーを乗り換え，10:20，城関鎮南家庄村に到着。［三晋運］によれば，同村には興定6年（1222）「金鎮守懐遠大将軍南仲碑」が現存するはずであり，村人にその所在の有無を尋ねる。その内の一人が碑刻の場所を知っているとのことであったが，案内された畑にはどこにも石碑の影は見えない。古老の話によれば，畑の奥に置き棄てられたコンクリート製の水桶が古井戸の跡であり，その中に石碑があるという。しかし，水桶は土で覆われ草が生い茂るため，上から眺めても碑刻は全く見えず，結局確認することはできなかった。

10:45，諦めて南家庄村を発つ。11:10，廟上郷城西村の王氏墓地に到着。村人に石碑の所在を尋ねると案内してくれた。草丈の高い棉花畑の反対側からでも容易に目睹しえる巨大な碑刻は，唐貞元17年（801）「追樹十八代祖晋司空河東太守猗氏侯太原王公神道碑并序」であり，その左碑側には「復立太原郷牒」(1)が刻される。

11:35，同村を発ち，12:00に旧臨晋県城の所在地である臨晋鎮に到着。文廟とこれに隣接する県衙（臨晋大堂）を参観する。文廟は宋代の創建，清咸豊年間の重修を経る。大成殿が現存するが，周囲に雑草が生い茂り内部の参観は叶わなかった。県衙は大堂のみが現存。建築年代は元大徳年間とされ，正面には新たに付けられたであろう「大哉乾元」の額が懸けられる。大殿のみが自然災害や戦災などにも耐えて現存する唯一の建造物であり，一抱え以上もある巨大な柱が並ぶ様は威圧的ですらある。

12:55，臨晋鎮を発ち，13:30に北辛郷婆兒村に到着。同村郊外にセメントで作られた塀のような構造物があり，そこに延祐3年「晋文公廟碑」【2-2】が埋め込まれる。石碑を取り囲む塀はあまりに巨大で頑丈すぎる感じを与える。碑面は摩滅と剥落が激しく判読は困難である。碑陰には寄進者の名と寄進額が記される。

13:40，同村を発ち，13:58に北辛郷東卓村に到着。目指す碑刻は大徳7年「昭勇大将軍鎮辺大元帥行河中府事謝公碑銘并序」【2-1】である。［三晋運］によれば，碑刻は同村の薛族祖塋に存在するとされるが，村人に尋ねると村委会にあるという。東卓村委会の敷地内に立つ同碑は立派な碑廊に収められており，清嘉慶16年（1811）に謝氏の子孫達によって旧碑を模刻して作られた重刻であった。碑刻の傍らに記された「三移謝天吉碑記誌」によれば，1958年および1968年に東卓村南良に存在した墓地と廟が被害を受けたため，1978年に現在の場所に移されたという。

14:05，同村を発ち，14:30に臨猗県城内の双塔寺に到着。双塔寺は現在小学校として利用されており，内部の参観はかなわず，外から眺めるにとどまった。14:40，臨猗県博物館に到着。特に見るべきものはなく，すぐに出発し運城への帰路に就く。その途中，16:00に運城市上郭鎮上段村に立ち寄る。同村には泰定4年「段干木祠堂重修碑記」【1-10】が現存するが，その状態はかなりひどいものであった。道路脇のゴミが捨てられた空き地に立つ同碑は，その下部の大半が地下に埋没してしまっている。元碑の特徴とも言うべき彫りの深い立体的な螭首は完全に残っているが，下部が埋没するため極端にアンバランスな姿をさらしている。なお，碑陰には「段氏宗枝之図」【1-17】が刻され，山東斉河県，安邑県，陝県，河東県らに点在した段氏子孫の系譜が載せられる。碑刻正面には1960年の文物古蹟保護標誌が立てられるが，これすらも半ば埋没している状況は皮肉である。16:05，同村を発ち村外に立つ壮麗な清碑を見た後，17:05に運城市内のホテルに帰着。（井黒）

8月27日（日）　運城－芮城　曇

8:20，起床。10:25，出発して解州塩池を縦断し，10:50，常平関帝廟着。前回訪問時に見落としていた，大定17年「漢関大王祖宅塔記」【1-3】を確認するのが目的である。該碑は塔壁に鑲嵌されていた。末行には，本文よりは小さく，また異なる筆跡（刻跡）で，「金大定丁酉至清雍正九年辛亥四百九十四年　張学仁続」と追刻されている(5)。ほかに，嘉靖8年（1529）・同44年（1565）・嘉慶22年（1817）の重修碑も鑲嵌されており，この塔が金の重建以来，少なくとも三次の重修を経ていることが知られる。11:

00に常平関帝廟を後にし，11:35頃，中条山脈を越え，芮城県に入る。

12:00，同郷韓家村の五嶽廟に到着。門前には芮城県文物保護単位の標石が立つが，境内の建築は多く民家として転用されている。一番奥に硬山頂献殿が残っていた。殿前には亀趺を再利用したとみられる香炉と7通の碑刻が並ぶ。そのうち，献殿基台に立てかけられている小ぶりの碑刻が至正16年「重修五嶽廟記」【3-25】であった。摩耗が進んでいる。また立てかけられているため，題名が刻されている碑陰全文を確認することは叶わなかった(6)。12:20，出発し，12:45，芮城県城の中心に到着。芮城賓館にチェックイン。

昼食をすませ，14:15，県東部へ向けて出発。14:40，東壚郷東呂村の連三舞台到着。三連戯台とも呼ばれ，后土娘娘廟・関帝廟・馬王廟から構成される大廟に属している。山門には福寿寺の看板が懸かっている。施錠されていたが，運転手の孫さんが村人に頼んで開放してもらった。戯台（舞楼）中門の過道東壁に泰定5年「創建露台記」【3-21】が鑲嵌されていた。境内の献殿にはつい最近のものと目される「大哉乾元」の額が懸かっていた。

次の目的地は，西陌郷寺里村の清涼寺である。修建のため参観謝絶とあったが，尼僧の方に温かく出迎えられ，許可をとって，15:30から16:10まで碑刻を検分する。大雄宝殿の基台に二通の碑刻が鑲嵌される。東側が「1248年芮城縣清涼寺チャガン言語」碑【3-5】，西側が後至元6年「勅賜清涼寺家譜諱名之図碑」【3-22】。前者の「言語（üge の訳語）」の発令者チャガン Čaγan は，原碑では茶罕官人（官人は noyan の訳語）と現れる。チンギス＝ハン Činggis qan の千戸の第一百戸長となり，ウゲデイ＝ハーン Ögedei Qaγan 時代に対南宋戦線に従事する華北駐屯軍のトップに任じられたタングトのチャガンである(7)。この碑刻は，河南省林州宝巌寺（山共峪山寺）の甲辰年（1244）4月28日発令「チャガン言語」碑（延祐3年（1316）11月4日立石。下截は僧衆題名。碑陽・碑陰の問題については待考）と並んで，ドレゲネ Döregene 監国期からグユク Güyüg 期にかけてのチャガンの華北における活動を直截に示す重要史料である。本碑の冒頭は「貴由皇帝福廕裏」（グユク皇帝の福廕に）で始まり，末尾部分に紀年「戊申年九月十五日」がみえ，発給地点として「西京懐仁県南下処行」（西京懐仁県の南下で行す）と記される。発給地点の言及や，紀年を記す行から発給地点を記す行にかけて印璽が重ねて刻されることから，この紀年は発給年を表しているとみて間違いない。ただし，グユクはこの年，すなわち1248年の3月すでに没している。この齟齬は誤刻のためであろうか。それとも，グユク没後の混乱期であるが故に生じたものとみるか，あるいは原文書の段階では月日が空欄であり，文書が受領された際に月日が書き込まれたた

めとみるか，後考を待つ。

大雄宝殿手前東側に碑林がある。大徳7年「解州芮城県谷底剏修清涼院碑」【3-13】（碑陰：題名），至大3年3月15日発令「アユルバルワダ令旨」碑【3-12】が立つ。直訳体碑文として現存するアユルバルワダの令旨2通のうちの1通である。碑陰は，至大3年「勅賜芮城県清涼寺記」【3-14】。篆額を担当するチャガン Čaγan は，『元史』巻137に伝が立てられる察罕である。チャガンは，西域出身でフレグ Hülegü（旭烈兀）に仕えて河東民賦副総管となった伯徳那の子で，河中で生まれ育った。至大元年（1308）に太子府正・昭文館大学士となり，該碑にもこの官職が記される。ハイシャン Qaišan（武宗）時代の皇太子アユルバルワダ Ayurbarwada（後の仁宗）に仕え，その即位後も重用された人物である。本令旨が清涼寺に発給された背景には，アユルバルワダの腹心で，この地域出身であったチャガンの仲立ちがあったとみて大過なかろう。

これら以外にも［三晋運］は数通の元碑を著録するが，見あたらなかった。2004年に同寺を訪問した村岡倫・渡邊久の両氏が確認したのも以上の3通ということであったから，同書が基づいた調査（刊行は1998年）から2004年の間に失われたのか，あるいは他所に移管されたのであろうか。なお，碑身のほとんどが埋没している碑刻が1通あった。これが元碑の可能性もあろう。今後の整備が待たれる。

16:55，同郷朱陽村の后土廟に到着。至正6年「創立献殿」碑【3-23】が本殿中央祖始廟の東壁に半ば嵌め込まれた形で立っている。そのため碑陰は確認できない。額題は「明堂霊顕真君」だが，この螭首は，碑身とのバランスを大きく欠き，大きさ・石質等の面からも後代にすげかえられたものと思われる。首題「創建献殿」は碑身一行目に刻されるが，その行の上方には本文の冒頭二字が，下方には立石関係者題名が刻される。刻字スペースを節約するためであろうか。17:05，后土廟を後にし，17:30，ホテルに帰着。（船田）

8月28日（月）　芮城　曇時々雨

8:00，起床。9:30，昨日に引き続き，孫さんのタクシーに乗車。［三晋運］によれば，磨澗村中学（玉泉観旧址）に元貞元年「玉泉観記」【3-10】が現存している。玉泉観は永楽宮に同じく，宋徳方によって建てられた道観である。10:20，辿り着くと，学校自体も廃校になっていた。［三晋運］の刊行からすでに8年，状況がどんどん変化していることを改めて認識する。当該石刻を検分し，10:40，玉泉観旧址を後にする。

次の目的地は，中条山脈の奥深くに位置する九峰山純陽上宮である。11:

20，山の中腹にさしかかったところで，舗装が途絶える。ぬかるみがひどく，これ以上車で進むのは不可能である。本日の踏査はあきらめ，明日出直すことにする。

11:40，山道を下り， 12:35，永楽鎮（原村郷）歴山村に到着。ここには，［三晋運：140[36]］に拠る限り，元碑「古舜祠登記土地記」があるはずだ。村人によると，1957年に永済博物館に移管されたという。最近修建された舜王廟と舜王廟の址地を案内して頂く。13:05，歴山村を後にする。13:25，永楽宮旧址着。純陽観という道観として機能していた。県城北に移築された永楽宮は観光地化されているが，こちらは今なお，全真教の道士が教えを伝えているようだ。13:30，純陽観を後にし，県城へ戻ることとする。

14:00，芮城県博物館着。城隍廟の建物が利用されている。15:05まで参観と碑刻の検分を行う。「古石刻芸術陳列室」に大定26年「仏頂尊勝陀羅尼経幢」【3-2】が展示される。そして，入場口を入ってすぐ右手の碑廊に歴代碑刻が並ぶ。大定22年「大金龐整孝行之記」【3-1】・皇慶2年「大元創建晋寧路解州芮城県下荘真常宮記」【3-15】（碑陰：甲寅年「芮城県沢浄観公拠」・門人派図【3-8】）・泰定3年「重修段干木先生祠堂記」【3-17】（碑陰：「段干木先生裔嗣」・題名【3-18】）・泰定3年「創建玄逸観碑」【3-19】（碑陰：門人派図・法親題名・寺産）・泰定4年「閻氏墓誌」【3-20】（碑陰：「本族宗枝之図」）・至正14年立石「1303年河中府延祚寺セウセ Se'üse 令旨」【3-11】（パクパ字モンゴル語，漢字額題「令旨碑記」，碑陰「河東県磨澗村下方延祚寺碑」【3-24】）。碑廊の壁に鑲嵌される碑刻としては，明昌元年「官署儆語碑」【3-3】・泰和3年「東嶽廟新修露台記」【3-4】。ほかにも，院内には県内各地から収集されたと思われる大量の碑刻が安置されている。

15:15，県城北にある広仁王廟へ。俗に五龍廟と呼ばれ，こぢんまりとした廟であるが，その正殿は唐代の遺構を留めている。2通の唐碑，元和3年（808）「広仁王龍泉記」・大和6年（832）「龍泉記」，及び2通の清碑がその壁に鑲嵌される。15:25，五龍廟を後にする。

続いて同じく県城北にある永楽宮へ。前回訪問時から比べて，大々的な整備が施されていた。この新しい入場口から以前の入場口（山門）の間には，新たに人口池が出現するなど，全く雰囲気が変わっている。15:30から17:10まで時間をかけて参観と碑刻の検分を行う。数々の元碑に殿宇建築・元代壁画，やはり圧倒的な迫力である。続いて，前回参観していなかった西側の区画を調査。まず，1987年重修の呂祖墓があり，甲寅年「先師玄都至道披雲真人宋天師真賛」【3-6】（乙亥年（1275）遷，尾題「故玄通弘教披雲真人宋公之墓誌」）と「玄都弘教至道披雲真人宋君之墓」碑が鑲

嵌される。また，呂公祠内にある展示室では，「十方大純陽宮玄都至道東莱披雲宋天師／時大朝歳次甲寅小春中旬有六日葬記／解州塩使兼管民千戸閻広施」【3-7】と蓋に刻された宋徳方の石棺を実見できた。この石棺の隣には，潘徳沖の石棺が安置される。これら石棺の側面には，建築や生活風景，二十四孝などの図像が刻されている【3-9】(8)。そのほか，永楽宮の移設に関する写真展示にも目を惹かれた。

県城に戻る折，雨足が若干強くなる。これでは明日も純陽上宮に行くのは無理だろう。残念ながら次の機会に回すしかない。（舩田）

8月29日（火）A［井黒・舩田］　芮城－永済　曇

8:00，起床。9:25から10:30まで芮城県博物館（城隍廟）を再度訪問し，調査を行う。碑廊前の院内に安置されている碑刻群の中に元碑を発見する。碑身のみが横倒しになっている。あるいは同様に安置される亀趺や碑座のいずれかとセットであった可能性もあるがにわかには同定できなかった。摩耗が激しいが，首題が「重建岱嶽□□碑」【3-16】と判読できた。末行を確認すると，「大元国延祐五年歳次戊午六月初十日維建」・「…孫…立石」・「洛京劉庭秀」の字句が確認される。ところで，［三晋運159[33]］・［山戯曲95[16]］等には，延祐5年（1318）「岱嶽廟創建香台記」が著録・移録される。両書の情報をすり合わせると，縦横ともに50cmの「壁碑」で，県中学（岱嶽廟遺址）から県博物館に移管されたものとなる。紀年は「大元延祐五年歳次戊午秋七月晦日」で「重建岱嶽□□碑」の50日後である。また「洛京劉庭秀刊」(9)とあることから，二碑の刊工が同一人物であることが知られる。首題・紀年・大きさから，これら二碑は別のものと判断されるが，ほぼ同時期に施工された岱嶽廟重修と香台創建を記念して刻石された一連の碑とみて大過あるまい。

11:00，前日同様，孫さんのタクシーにて出発。永済市域に入ってすぐの村が韓陽鎮長旺村である。ここの首陽山には伯夷叔斉墓があり，元祐6年（1091）「伯夷叔斉廟碑」［山碑碣211］・泰和4年（1204）「伯夷叔斉墓詩碣」［山碑碣251］・至元18年（1281）「大元封二賢制」［山碑碣260］が残っているはずだ。村人に尋ねると，昔の鉄道の駅のそばに伯夷叔斉墓があると言う。12:20，落花生畑を分け入ると，二基の塚がある。しかしながら，碑刻は見当たらない。農作業中の村人が昔は廟と碑刻があったが，文革の時に破壊されたと話してくれた。12:30，出発。

13:10，韓陽鎮下寺村に到着。棲巌寺の塔林が目的である。中条山脈の西端の山上に塔がそびえ立っているのが遠望できた。村人が棲巌寺塔林はまさにあの塔の脇にあると指差す。金代正大2年（1225）の塔銘「棲巌懐

…和尚塔銘并序」［三晋運32［23］］が現存しているはずだが，時間を考慮してあきらめることに。14:00から14:45まで蒲州鎮鹿峪村の万固寺において調査。清末同治年間（1862-1874）に火災に遭ったままの大雄宝殿内に碑刻が安置されている。大定9年「大宋河中府中条山万固寺重修碑銘并序」【4-2】が横たわっていた。薬師洞の殿前に，泰和3年「河中府万固寺爽心亭碑」【4-3】・致和元年「維大元河中府新城寨韓公政卿政素号法忍歴過十願実跡事記」【4-5】が立てかけられている。前者には下部に剥落があった。境内奥手に建つ多宝仏塔も壮観である。

15:00，昼食。15:30から16:00まで，西廂記の舞台でもある普救寺を参観。16:05，蒲州古城東門へ。城門の上に出ると南北に城壁が延び，南壁・北壁も望むことができる。甕城を散策する。16:25，鸛雀楼公園前へ。鸛雀楼は，1222年にモンゴル－金の戦火によって失われた。公園内に建つのは，近年唐代の楼閣を模して復建され，2002年にオープンしたものである。入場はせずに，門前から楼閣の写真を撮り，売店で関連書籍を購入する。16:45から17:15まで蒲津渡遺址博物館を参観。浮き橋をつないだ黄河鉄牛の出土地点がそのまま博物館となっている。すぐ近くが古城西門となっており，こちらも散策する。17:25，西門を後にし，途中の鐘楼で下車して検分する。17:30，出発し，17:45，永済電機賓館に到着。チェックインを済ませ，前日に永済入りしている飯山・小林と無事合流する。（船田）

8月29日（火）B［飯山・小林］　永済　曇

7:30，起床。宿泊していた電機賓館前でタクシーと交渉。8:45，出発し，9:15，清華郷王官村の小学校着。［三晋運］によると，至正24年（1364）「汾水頤真子李公之塔銘」と，同じく至正24年「賜金襴紫服通玄明遠大師道門提点通玄子塔銘并序」がこの小学校に保管されているはずであったが，生徒や教師にその所在を聞いても知る人はいなかった。また，［三晋運］に「清華郷王官村王石鎖家」に現存と記される元「普済院珎和尚塔銘」も，探し出すことはできなかった。何人かの村人が言うには，昨年運城文物局の職員がやって来て，古い時代の碑刻は全て持ち帰ったとのことであったが，事実関係を確認することはできなかった。10:30，王官村を後にし，10:40，清華郷清華村の扁鵲廟着。［三晋運:16］はここに大観元年（1107）「扁鵲廟碑」があると記すが，寺の管理人はこの碑を知らず，廟内にも見当たらなかった。

10:55，扁鵲廟を出，11:10，董村郷董村着。村内の小学校には元代のものとされる戯台が現存するが，目指す至正7年（1347）「大元宣授忠翊校尉孝子樊提挙墓題名碑」について知る人を見つけることはできなかった。11:35，董村を後にし，11:50，虞郷鎮呉閣村南窯上自然村着。親切な村人が，

村の南端，中条山脈の麓の畑の脇に立つ，皇統9年「麻秉彝世襲功徳碑」【4-1】に案内してくれた。風雨を凌ぐ庇の類が一切ないため保存状態は悪く，碑題と日付以外の部分がほぼ判読不能であった。12:10，上自然村を後にし，12:35，虞郷鎮石仏寺村石仏寺着。［河水利］によれば，石仏寺内には乾隆3年（1738）「石仏寺断水碑」があるはずであったが，すでに寺は民家に改築されており，碑刻の行方を知る人もいなかった。

12:50，石仏寺を後にし，13:00，郭李郷南郭村の西門着。［三晋運］には，皇祐5年（1053）「宋故翊衛功臣侍衛親軍歩軍都虞侯涇原儀渭州鎮戎軍駐泊馬歩軍副都部署金紫光禄大夫検校太子賓客使持節端州書軍事端州刺史充本州防御使兼御史大夫騎都尉楽安郡開国侯食邑一千八百戸食賓封二百戸孫公神道碑銘并序」と延祐5年（1318）「中条山孫氏先塋碑銘并序」が「西門外」にあると記されている。幸運にも，附近に住む90才のご老人趙氏の案内を得，西門外の薬王廟の南側に広がる藪の中で，半ば土に埋もれた上記「孫公神道碑銘并序」を発見することができたが，「中条山孫氏先塋碑銘并序」については趙氏も記憶にないとのことだった。90才というご高齢を全く感じさせない力強さで鉈を振って藪を掻き分け，我々を碑刻まで導いて下さった趙氏に，心からの感謝を捧げたい。

13:40，南郭村を出，13:53，郭李郷孫常村小学校着。［三晋運］によると，この小学校はもともと延祚寺，又の名を大鍋寺という寺で，中に宋代の碑刻とされる「延祚寺線刻全図并跋」があるはずであったが，校内にそれらしき碑刻は見当たらず，夏休み中ということで，事情を尋ねるべき生徒も教師もいなかった。14:10，孫常村を後にし，14:25，ホテルに帰着。昼食を取り，18:10，ホテルに到着した井黒・舩田と合流した。（飯山）

8月30日（水）　永済－運城－河津　曇のち雨

7:15，起床。9:00，ホテル前でタクシーに乗り，市内中心部の舜帝広場に面した市博物館へ。9:05，到着。残念ながら非開放であった。ホテルに戻ってチェックアウトし，市内迎新街の長距離バスターミナルへ。直接河津に向かう予定であったが，午前の河津行きのバスはすでにみな出発してしまっていたため，まず運城に行き，そこから河津行きのバスに乗り換えることにした。10:10，永済を出発し，11:25，運城市長距離バスターミナル着。河津行きのバスに乗り換え，11:45，運城を後にした。13:30，河津市長距離バスターミナル着。タクシーにて天都大酒店へ。昼食後，14:45に，ホテルを出，タクシーで河津市博物館へ。14:50，到着。事務所に碑廊が付随した形の博物館で，碑廊には十数基の碑刻が立ち，そのなかに大定21年「重移修福聖寺碑」【8-2】，至元22年「大禹廟住持姜善信碑」【8-3】，至正17年「□修上生院記」【8-7】があった。「移修福聖寺碑」の碑陰・碑側には明代の地方官による刻字が，「□修上生院記」の碑陰には碑陽と同時代

の人名のリストが刻まれる。

15:35，市博物館を後にし，雨が非常に激しくなってきたので，これ以上の野外調査は困難と判断し，ホテルに戻った。翌日の車をフロントで手配し，夕食。夕方のニュースで，ここ数日の豪雨で河津附近の道路が大きな被害を受けているとのことを知り，これからの調査経路について地図を広げつつ再検討した。その結果，明日は稷山県を調査した後，稷山県北部の県道を通って河津市区北部に行き，市区北部の碑刻を調査してからホテルに戻るという経路を採用することとなった。（飯山）

8月31日（木）　河津－稷山－河津　曇時々雨

7:30，起床。9:00，昨日予約したミニバンでホテルを出発し，国道108号を通って稷山県へ。9:40，最初の目的地である青龍寺着。青龍寺は稷山県博物館も兼ねる。立仏殿・大雄宝殿で元代壁画を観覧した後，境内東南隅の碑林へ。そこには，巨碑の多い元碑の中でもかなり大きな部類に入る元統元年「故通奉大夫参知政事大興府尹贈正奉大夫河南江北等処行中書省参知政事護軍追封平陽郡公謚忠粛姚公神道碑并序」【5-8】を始めとして，明昌2年「修塔維那最上福田姓名真像伝于不朽之碑」【5-2】，至順4年「参政姚公謚議」【5-7】が立つ。

また，碑林の隅に置かれた，平積みされた8基の碑刻を注意深く調査すると，積まれた碑刻と碑刻の隙間から，その中のひとつが「皇帝聖旨裏晋寧路絳州稷山県欽奉詔旨」という文言から始まる公文書であることが確認された【5-10】。ただし，この碑刻の上に平積みにされたその他の碑刻を取り除くことはできず，遺憾ながら確認できたのは上記の冒頭箇所のみである。他の碑刻の下敷きになっている末尾部分を確認しなければ文書の発給主体・宛先や形式を断定することはできないが，冒頭文における行政区名などからみてモンゴル時代の公文書を刻したものであることは確実であり，おそらくは絳州稷山県が欽奉した詔書に基づいて発給された文書であろう。

10:30，青龍寺を出，その傍らにある山西金墓博物館へ。地上の建築は全て後代のもので，さほど広大な印象を受けないが，地下の墳墓は合計14の墓室とそれらを連結する通路からなる，予想以上に大規模なものだった。現在は4つの墓室が開放されており，壁面を天井から床まで覆う非常に精緻な彫刻と，おそらく雑劇と民間信仰を中心としたそのモチーフはまさしく圧巻であり，地下の静謐な空気と相俟って，今が21世紀だということを忘れさせられた(10)。地下墳墓への入口には大定21年「段楫預修墓記」【5-1】の拓本写真が掲げられており，実物は未公開の第7号墓にあるとのことだった。

11:15，山西金墓博物館を後にし，11:40，城関鎮平壠村着。村の畑の中

に，それぞれ10mほどの間隔を隔てて，泰和2年「大金故武威段公墓表」【5-3】，同じく泰和2年「大金故中奉大夫前華州防御使兼提挙学校事護軍武威軍開国侯食邑一千戸食実封一百戸致仕段公墓表」【5-4】，「中奉大夫護軍武威□□段公…」【5-5】が立つ。残念ながら，これらの碑刻も摩滅が激しく，首題以外はほとんど判読不能。13:00，平壠村を後にし，県城にて昼食。

14:00，県城内の稷王廟着。金元碑はなかった。14:15，稷王廟を出，14:25，大仏寺着。元代の建築が現存し，碑廊には至正14年「清涼院絵飾仏像記」【5-9】（碑陰には祖師閑閑老人に遡る法統宗支と助掾人50名以上のリストが刻まれる）と，摩滅が激しくほぼ判読不能ながら，おそらく大徳11年「仏閣清涼院碑銘」【5-6】と思われる碑刻が立つ。15:05，大仏寺を出，15:35，西社鎮小杜村着。この村の東の外れにある杜陵書院旧址は，もとは敬志院と呼ばれる仏寺であり，［三晋運］によれば皇慶2年（1313）「十方坦然禅院碑」が現存するはずであったが，残念ながら鍵がかかっており，鍵の所在も不明であった。

15:55，小杜村を後にし，16:20，西社鎮高渠村着。［三晋運］によると，この村の大善寺には大定5年（1165）「白公和尚塔銘」と大定10年（1170）「長川十方大善寺塔銘」があるということだが，大善寺はすでに民家に改築され，碑刻の所在も不明であった。すでに夕刻となっていた上に，天候も思わしくなかったので，すぐに高渠村を後にし，［三晋運］によれば貞元3年（1155）「法宝寺重修記石」が現存するという路村郷傅家庄北呂梁山麓滴水崖原法宝寺の廃墟に向かった。しかし16:40に路村郷傅家庄に到着したところ，数日来の豪雨により，法宝寺への道は冠水して通行不能ということが判明した。仕方なく法宝寺調査は断念し，そのまま路村郷路村庄を目指したが，そこに到る県道も冠水して通行不能となっていた。県城に引き返す迂回路をとるのが最も賢明かと思われたが，運転手の勧めにより状態の悪い間道を通り，17:40，なんとか路村庄に到着。村人に案内してもらい，村内の姚氏墓地跡に辿り着いたが，今は瓦礫の散らばる空き地となっている。碑刻の破片らしき石片が落ちていたが，文字は確認できなかった。

18:10，路村庄を後にし，18:40，化峪鎮南衛村着。村内の観音堂は現在村民の集会所となっており，内部の床と外の庇の下の石積みには，水利関連の清・民国碑が9基鑲嵌されていた。19:05，時間があまりにも遅くなった上に道路も冠水していたため，河津市区北部の調査は翌日以降に延期することとし，国道108号を通って河津市区に戻った。19:35，ホテル着。夕食をとり，豪雨による道路事情の予想外の悪化をふまえ，明日以降の計画を再検討した。（飯山）

9月1日（金）河津ー新絳ー河津　曇時々晴

7:30，起床。9:00，ホテルを出発。1時間ほどタクシーに乗ったが，途中，運転手から道が不通だからバスに乗り換えろと言われ下車。不通ならばバスも動かないのではないかと疑問に感じながらバスに乗り込んだ。やはりバスも進めず回り道をしていくということで，降りて道を歩き渋滞の箇所を通り過ぎた後にタクシーに乗った。数日にわたった豪雨で河津附近の道路が被害を受けているという情報をニュースで事前に得ており，ある程度の覚悟はしていた。しかし，稷山県城そばの幹線道路工事も重なり，大型トレーラーがずらりと並んで停車している横を歩いて通ることになるとは予想外であった。

11:10，新絳県着。まずは文化館へ向い，館員に資料を示して尋ねたところ，龍興寺が博物館を兼ねていることが判明し，そちらに歩いて向った。門を入ると，中央に階段がありその左右に碑が並んでいる。階段に向って左側（西側）には新しい碑が並び，右側（東側）には比較的古い碑が並ぶ。その右側の場所には7基の碑が並び，一番奥には至元13年「絳州重修文宣王廟碑銘」【6-3】が立っている。その碑陰は，大中祥符5年（1012）「御製賛玄聖文宣賛并加号詔」であり，上截に「玄聖文宣賛」，下截に「加号詔」がそれぞれ刻されている。その次に，天聖10年（1032）「大宋絳州重修夫子廟記」。三番目に，至和2年（1055）「薛君（睦）墓表」。四番目に，「重修石岸南門記」が立つが摩滅が激しく詳細は不明である。五番目に，大定23年「復建州衙南門記」【6-1】，碑陰は至正3年「絳州重刻碧落碑文」【6-5】であるが，碑陰を道側に向けて立てられていた。六番目に，至元26年「勅賜靖［応］真人道行碑」【6-4】，これも碑陰を道側に向けて立てられていた。七番目に，成化18年（1482）「重修観音堂記」。階段を上ると，中央に碑亭があり総章3年（670）「碧落碑」が立つ。塔には登らず，その下にある墓所に入る。先に訪れた稷山の山西金墓博物館で見たものと同様のレリーフが細緻で見事であり，女性が上半身をのりだして門から外を覗く姿を描くレリーフもあった。

12:35，歩いて文廟に到着。中に多くの赤い太鼓が置かれており，碑もその太鼓の裏に隠れる形で立っている。また，多くの拓本が展示してあり，これから確認するであろう「宋真宗文臣七条戒官吏」の拓本もあった。

13:50，商店の壁に「三官大帝聖像」碑【6-6】と咸豊9年（1859）の碑を見つける。14:00，新絳一中に到着。同校の敷地内には山西省文物保護単位である絳州大堂があり，そこでは入学手続きが行われていた。その間を通り抜けると，文廟で拓本を見た建中靖国元年（1101）「宋真宗文臣七条戒官吏」が壁に埋め込まれていた。

14:20，隋代花園に到着。入口を入って間もなく左側に至和3年（1056）

「題絳守園地呈太守薛君比部」があるが，上部は欠けて無くなっている。庭園内を一周した後，事務所で碑について問い合わせる。文物局職員の王氏の話では，文物整理事業が採択され現在進行中だと言う。この事業の完成の暁には，碑刻調査は格段に遂行しやすくなるだろう。資料を買い，次の目的地である鼓楼・鐘楼・楽楼の絳州三楼に向おうとすると，王氏に案内して頂くことになった。楼から伸びる道は坂道になって下っており，その先に戯楼がある。氏の話ではこの坂に大勢の人が座り観劇をしたとのことで，当時の庶民文化水準の一端が窺える。

17:00，城関鎮侯庄村に到着。トウモロコシ畑に至元3年「故鎮国上将軍絳州節度使劉公神道碑銘」【6-2】が立つ。河津のホテルへ戻る途中，来た時と同じ箇所でバスがまた渋滞に巻き込まれる。一旦下車し，渋滞の箇所を歩いて通り過ごし，再度バスに乗る方法を取る。道を歩き飲み水を買うなどしながら渋滞が無くなった所まで来ると，丁度よくバスが来た。勢いよくそれに乗り込むと，先ほど降りたバスであった。席に着く際に乗客達の視線が少しだけ痛かった。19:00，無事にホテルに到着。（小林）

9月2日（土）A［井黒・舩田・小林］　河津ー万栄ー河津　曇

7:30，起床，9:00，タクシーに乗り万栄へ。10:00，南張郷太趙村にある万栄稷王廟に到着。しかし，鍵がかかっており中に入れず。鍵を管理している村の老年会会長のところへ，村の人の案内を得て飯山・舩田が向い，ようやく中へ。手前に戯台があり，その奥に本殿がある。真ん中にある鐘がひときわ目を引く。これは宣和4年（1122）4月26日の紀年を持ち，もとは普照寺にあったものであり，2001年に移されたものとの説明が付いていた。東側の壁には至元8年「舞庁石□」【7-6】が埋め込まれている。10:20，同じ太趙村にある太趙学校に到着。3mほどの普照寺和尚塔の壁に至治2年「弘教大師贇公塔銘」【7-11】が埋め込まれている。学校のたくさんの子供達が見守る中，学校の方が説明をしてくれた。

万栄県城に向かい，10:50，万栄東嶽廟到着。門を入ってすぐに華麗な造形をほこり「天下第一木楼」の美称をもつ飛雲楼がそびえている。楼の下に至正14年「施縁功碑」【7-12】が明代のものらしき石塔とともに転がっていた。その楼を過ぎて右には，大徳7年「河中府万泉県解店重修岱嶽廟碑」【7-9】が立つ。碑の左右両脇側には龍のレリーフが施されている。また，敷地の最も奥には地下に地獄が作られていたが，真っ暗で何も見えなかった。

近くで食事をした後，タクシーをひろい，運転手に地図を見せながら行き先を相談するが交渉がまとまらず，結局，もう一台のタクシーをつかまえ，二手に分かれ行動することになる。東側を飯山が担当し，西側を舩田・井黒・小林が担当した。

13:30，通愛村に着き，至元17年「元鎮西総戍大元帥呉信墓表」【7-8】を確認。これは「清道光十四年十一月」の紀年をもつ「鎮西総戍大元帥呉公神道」と大書された碑と裏表に張り合わされ，周りをコンクリートで固めて立ててあり，そのコンクリート上部には「呉帥」と大きく書かれている。もう一つ碑があるという村の人の情報をもとに，作業場に赴くと，隅に碑が転がっていた。碑陰が上になっていたため，作業場で働いていた方々がひっくり返してくれた。見ると「大元鎮西総戍大元帥呉公神道」と大書され，「大清［乾］隆十四年清明吉日」と紀年がある。先に見た道光14年（1834）の紀年をもつ碑とどのような関係にあるか詳細は不明である。

15:20，山の上にそびえる八龍寺塔に到着。来る途中，場所を尋ねている際に地元の郷土史研究家の方に出会い，案内してもらった。塔のふもとには正隆元年（1156）の紀年を有する鐘がある。塔の側面には，もともとは石碑がはめられていただろう痕跡がある。郷土史研究家の方によれば，戦争時に日本軍が持ち去ってしまったと言う。

16:00，宝鼎郷廟前村后土祠に到着。長い階段を登り，一番奥に正殿があり，その前には天会15年「蒲州栄河県創立承天效法厚徳光大后土皇地祇廟像図石」【7-1】（「后土廟貌図碑」）と大中祥符7年（1014）「后土廟歴朝立廟致祠実蹟碑」が陰陽に刻され，ケースに覆われ立っている。大中祥符4年（1011）の后土祠が最も栄えた時の状況が記載されていると説明がついていた。正殿に向って右側の建物中に，宋真宗の真筆と説明がつく大中祥符4年（1011）「汾陰二聖配饗銘」が内部壁面に嵌められて立つ。また，その建物の右隅には大徳11年「秋風辞」【7-10】が木の枠に嵌められて置かれていた。

17:50，本日最後の目的地，崖の近くにそびえる北辛舎利塔に到着。塔東面二層外面に大定18年「栄河建胡壁堡鎮崇聖禅院塔記」【7-4】が埋め込まれている。またその反対側の塔壁には大定18年「□□□録司帖塔銘」【7-5】が上部を欠いた状態で埋め込まれている。その後，19:20に河津のホテルへ戻り，既に戻っていた飯山と合流。（小林）

9月2日（木）B［飯山］　河津－万栄－河津　曇

県城で井黒・小林・舩田と二手に分かれた後，13:00，漢薛鎮興盛村着。村人に案内してもらい，同村北東の「石碑地」と呼ばれる畑地へ。一面に生い茂るトウモロコシのただ中に，咸平2年（999）「故水部員外郎呉公神道碑」が立つ。13:15，興盛村を後にし，13:40，皇甫郷小淮村に到着。［三晋運］に拠れば，同村の貯水池のほとりに元代「董公明遠神道碑」が立つはずであったが，みあたらず。村人に聞いても，その存在を知る人はいなかった。ある村民が自宅の門前の壁に石碑が埋まっているというので行ってみたが，清碑であった。同じ家の庭には，「董永故里」と刻まれる石片

が転がっていたが，その年代を特定する材料はなかった。

14:10，小淮村を後にし，漢薛郷西景村へ。14:20，到着。［三晋運］によると，大定10年「勅賜正覚禅院碑」が村内にあるはずであったが，正覚禅院はすでに跡形もなくなっており，同碑について村人に聞き込みをしたところ，かなり前に太原の文物局が持ち去ったと言う人もいた。さらに村内を探索したところ，村内の第七組学校の門前の草叢で，横倒しになっている同碑【7-2，3】を発見した。倒れていたため，残念ながら碑陰の有無は確認できなかった。周囲には清碑も1基横倒しになっていた。14:50，西景村を出て，高村郷南里村へ。15:40，到着。同村の小学校の校庭に，至元17年「万泉県南里村天慶観寧虚真人卯金氏道行之碑」【7-7】が立つ。15:50，南里村を後にし，国道を通って河津市に戻った。

時間にまだ余裕があったので，ホテルに戻る前に連伯村に向かった。16:45，同村の高禖廟（以前の后土廟）に到着。タクシーの運転手によれば，観光地化が進められており，秋からは入場料の徴収が始まるとのことだった。たしかに屋根瓦の修理などが行なわれていたが，まだ券売所などはみあたらなかった。寺内には住み込みの管理人が二人おり，快く内部を案内してくれた。倉庫の中に，至元29年「石砧銘文」【8-4】が安置されている。横木を横たえるような溝が上部表面に刻まれる一対の石塊であり，そのうち一つには「至元廿九年」との年次を含む銘文が刻まれる。以前はどのような状態で使用されていたのかは，管理人も知らないとのことだった。17:10，高禖廟を辞去し，17:50，ホテルに帰着。（飯山）

9月3日（日）河津　曇

9:00に出発し，9:30，薛仁貴寒窖に到着。もともと本日の行程の最後に回る予定であったが，タクシーの運転手が勝手にここから回ることに決めてしまった。大規模な工事が行われており，まだ整備されていない道を登っていった。その後，他の目的地に移動しようとするも運転手が行きたがらず，とりあえず一旦ホテルに戻り，そこで新しい車を手配してもらうことに。

華家堡に着き，地元の人に石碑の場所を尋ねてみると，村委員会にあるということで，電話で聞いてもらった後，そこへ向った。10:40，委員会の建物に到着。門を入ってすぐ左手に「水利碑」と書かれた碑が転がっている。万暦年間のものと思われる。ひっくり返し裏を確認すると上部に「永示不忘」とあり，下部に水系図が記されている。訪れた際に委員会では何やらもめ事が起きていたが，我々とは関係無いとのことで，我々は碑を確認することに専念していた。

11:10，樊村鎮于潤村着。一面にトウモロコシ畑が広がる中で碑を探さなければならなかったが，運転手が当地を熟知し碑のありかも記憶してい

ると言うので，彼の案内に従う。まず，畑の中に碑があるとの指摘をもとに，飯山が畑に入りトウモロコシをよけながら確認しに行ったが，碑は発見できず。また，運転手は碑がもう一つあると言い，ついて行くと白い家の東側の畑に三基の碑が立っているのが見える。向って左側が泰定3年「故河津鎮西帥史公墓碣銘」【8-6】である。中央と右側の碑は，墓碑が損壊してしまったために1990年に立てられた碑である。

13:30，古垛后土廟に到着。となりにキリスト教会があり，その背後には廃墟となった建物があり，少々異様な雰囲気があった。廟の門は開いておらず，窓から中を見るも荒れており，管理は全くされていない様子である。その向かいには舞台が設置されてあった。

13:50，固鎮に到着。診療所の中に入ると，奥の床に碑が敷かれている。摩滅して判読できない部分が多いが，正徳9年（1514）立石の紀年を持つ碑や嘉靖3年（1524）「□馬峪重修水利記」等，計6枚あった[111]。14:40，樊村舞台着。その手前に関帝廟舞台がある。その門の梁の部分に文字が書かれており，「□□□□拾肆年九月十八日樊村創建□…□十五日重修」と見える。15:15，侯家庄到着。畑の中に小さな塔があり，それが懐遠大将軍墓塔であった。下部に至元30年「懐遠大将軍楊公之墓」【8-5】がはめ込まれている。しかし，塔自体が半ば埋没しかかっていた。

15:40，禹門口に到着。すぐそばに山が接している場所である。少し行くと抗日烈士の塔が見え，それを過ぎると悠々と流れる黄河が眼前に現れる。この場所で黄河は川幅を急激に広くするが，始めて黄河を目の当たりにし，とにかく「広い」の一言だけが頭に浮かんだ。黄河の雄大さをしばらくかみしめた後，本日の行程最後の目的地，真武廟へとむかった。16:50，真武廟に到着。長い急な階段を上る。一番上からは周囲を一望することができた。17:20，真武廟をあとにし，ホテルへ向った。（小林）

9月4日　（月）　河津ー韓城　雨

10:15，ホテルを出発。本日もまたも雨である。予定通りバスにて韓城市へと向かうこととし，10:25に河津市長距離バスターミナルに到着。しかし，韓城行きのバスは既に満員で出発しようとしている。急いで駆けつけると，バスの乗務員は我々の荷物をバスの屋根の上に上げるという。晴天であっても気乗りしないのにましてやどしゃぶりである。バスを諦めて，タクシーにて向かうことにする。

前日訪れた禹門にかかる黄河大橋を渡り，11:50に韓城市に到着。市内の銀河大酒店にチェックインし，13:10，ホテルを発つ。13:15，文廟（韓城市博物館）に到着。廟内の献殿の壁には明清碑が多数鑲嵌される。また，同殿内には上部の破損した元碑が1基立てられるが，破損のため碑額・碑題を確認することはできず，かろうじて主題の「［大禹？］廟記」【9-4】

と文末近くに「至正十四年」の文字が判読できた。そのほか，龍門の光景を描く同治13年（1874）「龍門全図」，光緒年間（1875-1908）「龍門山全図」，年代不明「龍門詩図」が置かれる。

14:15，文廟を発ち，14:35に芝川鎮の司馬遷祠に到着。途中の高速道路は黄河の上に架かる高い橋脚の上を走る。絶景ではあるが，かなりのスリルを味わう。司馬遷祠は山裾から斜面に沿って建物が配置されており，石畳の坂道と階段を登った最上部に司馬遷の墓所がある。円筒形の墓の側面に鑲嵌される碑刻の内，東北側の大定19年「重脩漢太史公墓碣」【9-3】が最も古い。その他，献殿には靖康元年（1126）「芝川新修太史公廟記」および元祐年間の題記が並ぶ。また，中腹には政和2年（1112）「勅修同州韓城縣河瀆霊源王廟碑」が碑廊の下に置かれる。同碑は［文図秦：下518］によれば西庄鎮東王庄村に置かれるとされるが，いつ司馬遷祠に移されたのかは不明である。

15:40，司馬遷祠を発ち，16:25に蘇東郷北周原村の大禹廟に着くも，金元碑は存在せず。続いて17:10 昝村郷呉村の普照寺に到る。同寺は至正年間の創建で，大殿は元代の遺構とされる。ここは陝西元代建築博物館をかねており，寺内には韓城市内から移築された元代建築群が建ち並ぶ。この他にも韓城市内には西庄法王廟献殿，昝村禹王殿献殿，薛村三聖殿献庭，孝義村関帝廟正殿，紫雲観三清殿など，数多くの元代建築が現存する(12)。17:40，普照寺を発ち，17:53に西庄鎮の法王廟に到着するも，閉門しており参観は叶わなかった。18:20，ホテルに帰着。（井黒）

9月5日（火）　韓城－郃陽－韓城　晴

7:50，起床。昨日までとは一転，気持ちの良い秋晴れである。10:15，出発。10:55，郃陽県城の中心に位置する文廟へ。しかし，中には入れず，外側から大成殿・尊経閣の写真を撮影するだけに終わる。県博物館も兼ねているが，対外開放してないとのこと。

11:05，県城西に位置する「1318年郃陽縣光國寺アユルバルワダ聖旨」碑【10-1】へ。1318年のアユルバルワダ聖旨，パクパ字モンゴル語・直訳体漢語が上下に合刻される。延祐6年（1319）立石。光国寺はすでに存在しない。碑刻は最近建てられたばかりと目される碑楼にそびえる。碑楼は自由に見学できるようになっているのだが，それ故，落書きが甚だしい。

11:40，車に乗り，南へ向かう。12:15，赤城村の西明寺に到着。［文図秦：下565］によると，咸平4年（1001）「西明寺舎利塔碣」が存在するはずだが，塔も碑刻も現存しなかった(13)。12:25，西明寺を後にし，今度は北を目指す。13:30，東城後村に到着。皇統9年（1149）から貞元元年（1153）にわたって開鑿された寿聖寺石窟が目的地である。ここの石窟の側壁には，金代の「梁山寿聖寺石室銘并序」［文図秦：下565］題記が刻されている。

山の中腹までは車で上ることができた。しかし，その先は残り時間を考慮し，あきらめ，13:50，邵陽県城経由で韓城に戻ることにする。山道から舗装道路に出るときに，車体が下を削ってしまう。暫く走った後，運転手が異変に気づく。ガソリンが漏れている。タンクに穴が開いてしまったらしい。邵陽県城に急行し，14:20，修理屋に到着。14:35，無事修理が終わり，ガソリンスタンドで給油して韓城への帰途につく。15:05，韓城の城隍廟前で下車。

城隍廟は，文廟とともに韓城市博物館を構成している。本殿は修築中であった。ここの城隍廟もかなり大きな規模を残している。長治のそれに比肩しよう。戯台なども荘厳である。文廟同様，ここにも収拾された石刻が安置されていた。15:40，城隍廟を出て，西へ向かって歩く。古い街並みが残っている。道端に亀趺が佇んでいて，街並みにとけ込んでいる。16:10，九郎廟。至大元年（1308）創建，明清の重修を経ているものの，正殿は元代遺構とされる。韓城市収蔵協会として利用されており，骨董屋も併設されていた。16:20，九郎廟を後にし，16:30，関帝廟へ。廃屋状態で施錠されていた。

16:40，金塔公園へ。古城の北端が公園の南門になっており，そこから石段を登っていく。途中鐘亭があり，承安4年（1199）の鐘が吊らされている。銘文も鮮明である。一番上まで登り切ると，大定13年（1173）に建てられた塔がそびえ立つ。そして，南を眺望すると，芝川鎮周辺の黄河と高速の高架が視界に入る。絶景である。塔の基台の東壁には2通の金碑【9-1，2】が鑲嵌される。ともに大定13年の紀年をもつ。金塔公園の北門を出ると新市街が拡がっている。そのまま徒歩でホテルに戻る。（舩田）

9月6日（水）韓城－西安　曇

9:40，ホテルを出発。14:40，西安の台湾大酒店到着。舩田・井黒は翌日の飛行機に乗るため咸陽飛行場近くのホテルを取っていたが，とりあえず飯山・小林が泊まるこのホテルに荷物を置き，小休止の後，陝西歴史博物館へと向う。

15:00，陝西歴史博物館着。一通り見て回り，16:40に博物館を後にしホテルへと戻る。後，夕食。今回の調査の全行程を無事に終えた達成感と安堵感により大いに盛り上がり，感想を述べあう中で反省点を出し合い，次回の調査につなげることを誓った。食事後，井黒・舩田は荷物を受け取った後，飛行場近くのホテルへむかった。（小林）

総　括

今回の調査では，永楽宮や池神廟などで前回の不備を補うとともに，時にメンバーを二手に分けて調査を行うなどの方法を用いて，当初予定した調査地点をほぼ網羅することができた。これには事前調査や調査地域の選定において，これまでの経験が生かされたこともあるが，現地の様々な人々の直接・間接的な協力が得られたことがより大きい。

中でも運城市では河東塩業博物館館長の李竹林氏および呉鈞氏の協力を得て，当初想定していた以上に効率的な調査を行うことができた。また呉鈞氏より運城市区における石刻資料調査の状況を聞けたことは大きな成果であった。両氏は我々の今後の調査に対しても快く協力の意を示して頂いた。長年に亘って実際に現場を隈無く歩き周り，新資料の収集に尽力してきた氏の研究手法と現在でもそれを継続するひたむきな姿勢にはただただ頭の下がる思いである。

呉鈞氏に代表される郷土史家らの活動とその成果は地域の外へは伝わりにくい。地方の大学の紀要や現地の新聞などに掲載されるその成果を我々が把握することには大きな困難が存在する。今後は現地の生き字引とも言うべき呉鈞氏ら郷土史家の知識や経験を国内外問わず広く公開していくとともに，学術交流の中でその成果をさらに活用することが必要である。

もはや贅言を要さないが，現地調査にあたっては大学や研究所に所属する研究者に加えて，現地の文物局職員や郷土史家との協働作業が必要不可欠である。また，協働のためには我々自身が現地に足を運び地道に調査を行うという行為を今後も継続して行っていく必要がある。資料調査の名のもとに，そこから情報やデータのみを引き出すことに終始することはもはや許されない。国や大学・研究所レベルの提携といった大きな枠組みだけではなく，地域の研究者や郷土史家との間で文物の保護や当該地域の歴史研究に対して，より細やかな協力関係を築きあげることが必要である。

今回の調査中において，本文中で触れた方々以外にも様々な現地の人々や研究機関の研究者にお世話になった。山西省の研究者を紹介して頂いた北京大学の鄧小南教授および韓茂莉教授，太原師範学院の王尚義院長，張慧芝博士，山西大学の行龍教授，また運城市文物局の李百勤氏を紹介して頂いた陝西師範大学の李裕民教授に改めて感謝の意を示したい。また，研究者以外にも我々とともに芮城県内を走り回り，時には率先して碑刻発見に努めてくれたドライバーの孫さん，横倒しになり半ば埋まった石刻を仕事中にもかかわらず総掛かりで掘り起こしてくれた方々，村内のもめ事の中，突然訪れた我々のために他の村民と言い合いながらも調査を手伝ってくれた方など，様々な現地の方々の姿が目に浮かぶ。末筆ではあるが，彼ら現地の人々に改めて謝意を示すとともに，その好意に答えるべく継続的

な調査と調査対象地域への成果還元を今後の責としたい。（井黒）

註

(1) 前2回の訪碑行は，［飯山知保・井黒忍・舩田善之2002］および［井黒忍・舩田善之・飯山知保2005］にまとめた。なお，山西省における碑刻調査に関しては，これら以外に［舩田善之2004］［舩田善之・井黒忍・飯山知保2004］および［舩田善之・飯山知保・井黒忍2008］がある。

(2) 調査終了後に［文図晋］が出版され情報量はさらに大幅に増加した。ただし，調査時においては本書を参照することができなかったため，目録にのみその情報を反映させる。

(3) ［古蹟志］等によれば，同碑は以前池神廟に置かれ，碑陰には「至元二十七年（郭栄等）題記」が刻されるとされるが，今回の調査では見過ごしてしまった。

(4) 碑側の碑名は［三晋運：76(12)］による。

(5) 「四百九十四年」は，正しくは「五百五十四年」でなければならない。

(6) なお，［晋旅勝：582］は，元碑2通・清碑4通が現存するとしているが，今次の調査結果と［三晋運：138-156］の記載を踏まえると，万暦3年（1575）「重修五嶽廟記」を元碑と誤っている可能性が高い。

(7) チャガンとその一族の活動については，［堤1992：48-52］に要を得た研究がある。

(8) 宋徳方・潘徳沖の墓葬発掘とその石棺については，［山西省文物管理委員会・考古研究所1960］を参照。

(9) ［山戯曲95[16]］は，「洛京劉庭濬刊」とするが，おそらく誤記であろう。劉庭秀については，［張家泰1981］も参照。

(10) 稷山金墓の詳細については，［山西省考古研究所1983］を参照。

(11) 固鎮村を含む河津市の水利碑を用いた研究に［井黒2009］がある。

(12) 韓城市の元代建築に関しては［何1957］を参照されたい。

(13) 調査終了後，改めて［文図秦：下565］を確認したところ，寺・塔はすでに崩壊しており，塔碣1方のみが小学校の壁に嵌め込まれていると記されていた。我々が参観した寺院は，最近復建されたものと考えられる。

【附記】本稿は平成18年度文部科学省科学研究費補助金による研究成果の一部である。

河東訪碑行現存確認金元碑目録

井黒　忍・船田　善之・飯山　知保

凡例

1　本目録は，前文「河東報碑行報告」における過程で井黒・船田・飯山が現存を確認した金元時代の石碑についての目録である。

2　碑名，年月日，西暦年月日，関連人物，現存地，立石情報，拓本所蔵，関連文献（碑影・拓影及び著録・移録・研究・目録）の各項目を著録した。各項目の著録方針は下記の通り。なお，目録中における□は1字欠（及び不明），…は複数字欠（及び不明）を意味する。

2－1　同一石碑に複数の内容が記されている場合，各内容にわけて著録した。

2－2　碑名は，原則として首題・額題に拠ったが，一部通称ないし編者が命名したものを用いた。

2－3　年月日には立石年月日・発令年月日（公牘）・墓主卒年（墓誌）など知りうる情報を石碑に拠って示した。

2－4　西暦年月日については，年を西暦に換算した。項目中の＊は不明を意味する。月日については太陽暦に換算していない。

2－5　関連人物については，撰者，書者，公吏牘発令者及び対象者，墓主，立石関係者などを示した。

2－6　立石情報については，立石・合刻状況を示した。漢字漢語以外の文字言語がみられる場合も注記した。

2－7　拓本所蔵については，京都大学人文科学研究所附属漢字情報研究センターウェブ・サイト内の石刻拓本資料データベース（http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/db-machine/imgsrv/takuhon/）・北拓・山師戯やその他の参考文献から知りうる情報を示した。国は国家図書館，北大は北京大学図書館，人文は京都大学人文科学研究所，山師大は山西師範大学戯曲博物館，山省図は山西省図書館を意味する。国に続く各は各地の略である。

2－8　関連文献（碑影・拓影及び著録・移録・研究・目録）については，下の参考文献略号表に示す略号あるいは著者と初出年による略号によって示した。参考文献内で当該石刻資料に番号が施されている場合，（ ）で明示し，それ以外の場合は，巻数あるいは頁数を付した。たとえば，陳道(361)は陳垣『道家金石略』の金元の項，番号361の石刻を，山右34『山右石刻叢編』巻34を，北拓49-29は『北京図書館蔵中国歴代石刻拓本匯編』第49巻29頁を，三晋運25[15]は，『三晋石刻総目・運城地区巻』25頁，番号15を，それぞれ意味する。

3　排列は，現在の各行政区画ごとに年代順とし，排列順にID番号をつけた。年代不明なものについては末尾に排列した。

4　本目録は，船田が芮城県・韓城市・邵陽県の，飯山が永済市・万栄県・稷山県の，井黒が運城市・臨猗県・新絳県・河津市の石碑について，それぞれ草稿を作成した上で相互に補った。

ID	碑名	年月日	西暦年月日	関連人物	現存地	立石情報	拓本所蔵	碑影・拓影	著録・目録・考証	移録・研究
表1 運城市										
1	解州安邑県三家荘慈雲院碑記	大定四年四月八日	1164/04/08	高君実・盧夫輔・明円立石.	三家庄郷三家庄村内道傍	立石, 方趺. 上截にID2.			三晋運113[15];山西文[3879];文図晋1034	
2	1164年尚書礼部牒	[大定四年]四月…	1164/04/**		三家庄郷三家庄村内道傍	ID1の上截. 摩滅のため年月日不明瞭.			文図晋1034	
3	漢関大王祖宅塔記	大定十七年三月十五日	1177/03/15	張□謹言, 王輿立石.	常平関帝廟祖宅塔	鑲嵌. 雍正9年追刻あり.			三晋運19[1];山西調;光西通98;乾解運11	山右21
4	解塩司新修塩池神廟碑	至元二十七年八月十五日	1290/08/15	李庭撰;趙栄篆額;李仁軌書丹. 陝思丁・亢沢・郭栄・楊文蔚・趙璟・斉霖立石.	池神廟戲楼南碑林	立石. ケースで覆われる.	人文;山師大	人文DT(GEX0032B)	寰宇11;古蹟志134;攈古17;三晋運7[1];山師戲393[1];山西調;文図晋1031;光西通95	河水利271;河塩碑29;古松2000;山右27
5	勅封広済恵康王碑	大德三年八月日	1299/08/**		池神廟戲楼南碑林	立石, 額題「大元加号之碑」. 「広済恵康王」の加号. 碑名は撰者による.	人文;山師大	人文DT(GEX0057X)	古蹟志134;攈古18;三晋運7[2];山師戲393[3];山西調;光西通96	河塩碑38;山右28;成西通11
6	勅封永沢資宝王碑	大德三年八月日	1299/08/**		池神廟戲楼南碑林	立石, 額題「大元加号之碑」. 「永沢資宝王」の加号. 碑名は撰者による.	人文;山師大	人文DT(GEX0056X)	古蹟志134;攈古18;三晋運7[3];山師戲393[2];山西調;光西通96	河塩碑37;山右28;成西通11
7	重修文廟碑記	[至大]三年八月日	1310/08/**	張偉撰;趙忠佐篆額;米文煒書丹. [兀]魯不花・薛信・張貴・張澄・毋□□立石.	関王廟	立石, 方趺. 1985年に安邑電影院基建工地より出土. 碑陰に刻字.			三晋運123[11];山西文[3918];文図晋1034	
8	十儒従祀之記	延祐伍年八月日	1318/08/**	張□撰;張□仁題額;王之仁書. 也真不花・□大雄・張琬ら立石.	関王廟	立石, 方趺. 1985年に安邑電影院基建工地より出土. 碑陰は不明.			三晋運123[12];山西文[3924];文図晋1034	
9	大元勅賜重修塩池神廟之碑	至治元年十二月[二]十有二日辛亥	1321/12/22	王緯奉勅撰;劉賡奉勅書;李孟奉勅篆額. 関連者:馬思忽等.	池神廟饗殿前西側	立石	人文;山師大	人文DT(GEX0123A;GEX0123B)	古蹟志134;三晋運7[5];山師戲394[5];山西調;乾解運11;光解州11;順平陽9下	河塩碑50;山右32;乾解運12;古松2000

ID	碑名	年月日	西暦年月日	関連人物	現存地	立石情報	拓本所蔵	碑影・拓影	著録・目録・考証	移録・研究
10	重修段干木先生祠堂記	泰定四年歳次丁卯…	1327/**/**		上郭郷上段村路旁	立石，下部埋没.			三晋運113[17]；山西調；康蒲州11；民安邑12	
11	勅賜御香瑞塩碑誌	元統二年四月十三日	1334/04/13	篤列図撰	池神廟戲楼南碑林	乾隆碑とともに立石．碑陰に官吏の題名.			三晋運7[6]；山西調；光西通96	河塩碑56；金萃未
12	塩池神御香記	至正七年八月日	1347/08/**		池神廟戲楼南碑林	立石.	国各1428；人文；山師大	北拓50-33；人文DT(GEN0214X)	古蹟志134；三晋運7[7]；山師戲394[7]；山西調	河塩碑58；山右37
13	「置到石槽一条石匠李信」石槽	至正十年十一月十九日	1350/11/19	石匠李信	池神廟戲楼南軒下	2003年に池神廟戲台下より出土.				
14	重妝聖像記	至正十四年八月二十四日	1354/08/24		三家庄郷三家庄村内道傍	ID1の碑陰．文字不明瞭．碑名は「三晋運」による．左上部に碑記，中段に題名．右下部に別手による刻字.			三晋運113[18]；文図晋1034	
15	建置塩司歴年増課記	不詳	?	陳元忠撰并書.	池神廟戲楼南碑林	ID4の碑陰.	人文	人文DT(GEN0032A)	古蹟志134；攈古17	河塩碑39；古松2000
16	題名	不詳	?	帖木迭児・拝住・只児哈郎ら.	池神廟饗殿前西側	ID9の碑陰.	人文	人文DT(GEN0123C；GEN0123D)	古蹟志134	
17	段氏宗支之図	不詳	?		上郭郷上段村路旁	ID10の碑陰.				

表2 臨猗県

1	昭勇大将軍鎮辺大元帥行河中府事謝公碑銘并序	大徳七年歳次癸卯秋七月丁巳朔十有八日原立，嘉慶十六年三月朔日模刻重立.	1303/07/18；1811/03/01	墓主：謝天吉．麻革撰；高鳴書；陳元凱篆額．謝陟原立石.	北辛郷東卓村村委会	鑲嵌．篆額は佚．嘉慶16年に模刻重立.			攈古18；三晋運76[15]；山西調；文図晋1078；光西通96；民臨晋6	山右29；民臨晋12
2	晋文公廟碑	延祐〔三年〕	1316/**/**		北辛郷婆児村	セメント壁にて囲まれる．碑陽はほぼ判読不能．碑陰に題名と寄進額．亀趺は碑身と逆向.			三晋運76[16]；山西調；文図晋1080；民臨晋13	

ID	碑名	年月日	西暦年月日	関連人物	現存地	立石情報	拓本所蔵	碑影・拓影	著録・目録・考証	移録・研究
表3 芮城県										
1	大金壟整孝行之記(額題)	大定二十二年七月八日	1182/07/08	〔張敬〕撰文;張楫書丹;…源〔深温〕善信等立石	県博物館碑廊	立石. 首題「…〔州〕府河〔東〕…壟整孝行記」. 原村郷歴山村出土. 1982年に移管.			三晋運158[26];山西調;山西文〔3870〕;文図晋1071;光西通95	山右21
2	仏頂尊勝陀羅尼経幢	大定二十六年歳次丙午十二月甲戌朔十七日庚寅建	1186/12/17	仏陀波利奉詔訳;孫許安世書;孫許安民為己立;馬達刊	県博物館古石刻芸術陳列館	立石. 1989年城関鎮太安村楊志義家から移管.			三晋運158[27];文図晋1071	
3	官署儀語碑	大金明昌元年九月日置	1190/09/**		県博物館碑廊	鑲嵌. 首題・額題なし. 碑名は[三晋運]による. 原存地の旧治県署大堂から県法院を経て1983年に移管.		河東百10	三晋運159[28];山西文[3877]	河東百298-300
4	[東]嶽廟新修[露]台記	泰和三年歳次癸亥五月戊辰朔十一日戊亥(記)	1203/05/11	李鑒記;雷亨書丹;管勾廟主呂経;砌匠何…;石匠孫寺馬忠…〔姚〕進并刊	県博物館碑廊	鑲嵌. 一部摩耗. 1982年東門外東嶽廟遺址から移管.		三戯物[248]	三晋運159[29];山西文〔3880〕;文図晋1071;戯文物241[BII7]	三戯物[248];山戯曲53[8]
5	1248年芮城県清涼寺チャガン言語	戊辰年九月十五日(発令)	1248/09/15	発令者:チャガン・ノヤン(茶罕官人);発令地:西京懐仁県南下	西陌郷寺里村清涼寺大雄宝殿基台	鑲嵌. 首題・額題なし.			三晋運138[8];三晋運139[15]	
6	先師玄都至道披雲真人宋天師真贊	歳次甲寅小春望日立	1254/10/15	墓主:宋德方;李志鼎撰并書	永楽宮呂祖墓	鑲嵌. 尾題「故玄通弘教披雲真人宋公之墓誌」. 乙亥年(1275)三月三日遷.		山西省文物管理委員会・考古研究所1960:23	三晋運25[6];飯山・井黒・松田2002:174[36]	山西省文物管理委員会・考古研究所1960:22-24
7	宋德方石惇線刻図	大朝歳次甲寅小春中旬有六日葬記	1254/10/16	墓主:宋德方;閻広施	永楽宮呂公祠内展示室	石棺. 〔開芳宴図〕・〔游帰図〕・〔孝子故事図〕. 碑名は〔三晋運〕による.	永楽宮呂公祠内展示室	山西省文物管理委員会・考古研究所1960:pls.5-7	三晋運25[7]	山西省文物管理委員会・考古研究所1960:22-24
8	1254年芮城県沢浄観公拠	甲寅年十月日(発給)	1254/10/**	発給者:李真人(李志常);発令対象者:沢浄観主者(焦志潤)	県博物館碑廊	立石. 嫡首・亀趺. 門人派図(「祖真常李真人門人」)・題名が合刻. ID15の碑陰. 〔三晋運〕は延祐元年(1314)に繋年.		高橋1995:166, pl.1	三晋運159[32]	高橋1995[C]
9	潘徳沖石惇線刻院本演出図	中統元年(卒)	1260/**/**	墓主:潘徳沖	永楽宮呂公祠内展示室	石棺. 「二四孝図」・「院本演出図」. 碑名は[三晋運]による.	永楽宮呂公祠内展示室	山神劇130-132;山西省文物管理委員会・考古研究所1960:pls.8-9	三晋運25[8]	山神劇130-133;山西省文物管理委員会・考古研究所1960:2425

ID	碑名	年月日	西暦年月日	関連人物	現存地	立石情報	拓本所蔵	碑影・拓影	著録・目録・考証	移録・研究
10	玉泉観記	大元国元貞元年歳在乙未二月丙子朔十五日庚寅(立石)	1295/02/15	何志淵撰;王道方書篆;馮志清・高道昌同衆立石;功德主:王思義・王亨・小云失不花・玄静大師河中府道録不妨本[職…]志堅	大王郷磨澗村中学跡(玉泉観旧跡)旧校舎内.	螭首. 亀趺. 額題「玉泉観碑」. 下部に断裂あり. 碑陰には題名.			河水利319;三晋運139[10];山西文[3909];文図晋1072	
11	1303年河中府延祚寺セウセ令旨	ウサギ年春の末月二十九日(発令);辛正十四年重陽九月九日(立石)	1303/03/29	発令者:セウセ(小薛);発令地:大都;発令対象者:平陽路河中府延祚寺. 珍吉祥・城璐院主;志尚座書;維那頭錦講主;延祚寺懲院「主」衆知事大小僧衆立石;李文質刊石.	県博物館碑廊	立石. 方形碑座. 額題「令旨碑記」. パクパ字モンゴル語. 三箇所に印章. ID24の碑陽. 1982年大王郷磨澗村下方寺自然村延祚寺遺址から移管.		蔡1986:pl.;呼薩八2004[35];照八匯132[24]	三晋運26[26];三晋運160[39];山西文[3899];松川2007:142-143[21]	蔡1986;呼薩八391-398[35];照八匯131-136[24]
12	1310年芮城県清涼寺アユルバルワダ令旨	狗兒年三月十五日(発令)	1310/03/15	発令者:アユルバルワダ;発令地:大都;発令対象者:清涼寺住持講王法温義柔を始めとする仏僧ら	西陌郷寺里村清涼寺	立石. 螭首・亀趺. 額題「令旨」. 方形碑座. ID14の碑陽.			三晋運139[16]	
13	解州芮城県谷底殿修清涼院碑	大元国大德七年歳次癸卯庚申月丁巳朔十五日辛未(立石)	1303/07/15	胡光謙撰;景融書丹;法凈・義演立石;善興・善開・義逞・本院衆僧等同立石;郭義;何朝;馬合麻;孝義石匠提控王桂刊	西陌郷寺里村清涼寺	立石. 螭首・亀趺. 額題「殿修清涼院碑」. 碑陰:題名.			三晋運139[12]	
14	勅賜芮城県清涼寺記	至大三年五月五日記	1310/05/05	辛良史□;范椁書;察罕篆額;義叔安立石	西陌郷寺里村清涼寺	立石. 螭首・亀趺. 額題「勅賜清涼寺記」. ID12の碑陰.			三晋運139[17]	
15	大元勅建晋寧路解州芮城県下荘真常宮記	至大四年二月真元日(記);皇慶二年五月初一日(立石)	1313/05/01	王道亨記;張道倫書丹并額;楊志德・辛道果・邢道誠・焦道源立石;劉庭秀刊	県博物館碑廊	立石. 螭首・亀趺. 額題「皇元真常宮記」. ID8の碑陽. 1983年旧在城関鎮柴村常宮遺址から移管.			三晋運159[30];山西調;文図晋1072;光西通96;民芮城13	山右30
16	重建岱嶽□□碑	大元国延祐五年歳次戊午六月初十日維建	1318/06/10		県博物館院内	横倒し. 碑首・碑座なし. 摩耗厳重.				

ID	碑名	年月日	西暦年月日	関連人物	現存地	立石情報	拓本所蔵	碑影・拓影	著録・目録・考証	移録・研究
17	重修段干木先生祠堂記	大元国泰定三年歳次丙寅三月乙巳朔初四日戊[申](立石)	1326/03/04	段禧撰;解居仁書丹;蒲機篆;段道祥等立石;張信刊	県博物館碑廊	立石. 螭首・亀趺. 額題「重修段干木先生祠堂記」. ID18の碑陽. 1982年学張郷下段村段氏祠堂から移管.	永楽宮内書店(販売)	山碑碣283	三晋運159[34];山西調;文図晋1072;光西通96;光永済17;民芮城12;民芮城15	山右33;乾芮城12;民芮城15
18	段干木先生祠祠	大元国泰定三年歳次丙寅三月乙巳朔初四日戊[申](立石)	1326/03/04		県博物館碑廊	立石. 螭首・亀趺. 「襲慶之図」・題名. ID17の碑陰.			三晋運159[35]	
19	創建玄逸観碑(額題)	大元国泰定三年歳次丙寅六月癸酉朔初九日辛巳(立石)	1326/06/09	衛道玄篆;徐道安書;周德治撰;王道祐立石;太平県匠工李世英刊	県博物館碑廊	立石. 螭首. 首題部分剝落. 碑陰:題名・寺産. 1982年大王郷南辿村泉溝自然村玄逸観遺址から移管.		山碑碣286	三晋運159[36];山西文[3930];文図晋1072	
20	閻氏墓誌	大元泰定四年歳次丁卯孟冬二十有八日(立石)	1327/10/28	墓主:閻元咸;陳克誠誌;…書;劉伝題額;孫男□濟等立石;隰州蒲県李恩刊	県博物館碑廊	立石. 方形碑座. 額題「閻氏墓誌」. 碑陰「本族宗枝之図」. 学張郷孔村北十八畝地出土.			三晋運159[37]	
21	創建露台記	泰定五年暮春中旬九日(誌);大元戊辰歳次(刊)	1328/03/19	劉士昭謹誌;修台人怙蛮・母塔海・妻舎舎・男□・女兒□□;祝匠許德成・王信刊	東爐郷東呂村三連戯台(福寿寺)過道	鑲嵌.	山師大	三戯物[249];中神劇47	三晋運140[26];山師戯406[1];文図晋1072	三戯物[249];山戯曲120[21];中神劇47
22	勅賜清涼寺家譜諱名之図	大元至元六年歳次庚辰五月五日(立石)	1340/05/05	義柔・義琮立石	西陌郷寺里村清涼寺大雄宝殿基台	鑲嵌.			三晋運140[28]	
23	創立献殿	至正丙戌仲月日上樑	1346/08/**	維那頭劉青・劉□・劉恩・閻梅立碑;石匠王伯通・鄭温;鄭寛甫書丹	西陌郷朱陽村后土廟	立石. 螭首. 額題「明堂霊顕真君」. 碑座なし. 立碑者の下に関係者の題名あり. 碑陰は確認できず.			三晋運140[29];文図晋1072	
24	河東県磨澗村下方延祚寺碑	至正十四年重陽九月九日(立石)	1354/09/09		県博物館碑廊	立石. 方形碑座. 法系図・寺産・寄進額. ID11の碑陰. 碑名は[三晋運]による.			三晋運160[40]	蔡1986: 55-56
25	重修五嶽廟記	大元至正丙申秋七月晦日記	1356/07/30	李澄撰;陳克明書并篆額;朱陽社石匠帖筆王直・東陌石匠張寛林刊	翁底郷韓家村五嶽廟献殿前	基台前に立てかけ. 碑陰:題名.			三晋運140[31]	

ID	碑名	年月日	西暦年月日	関連人物	現存地	立石情報	拓本所蔵	碑影・拓影	著録・目録・考証	移録・研究
26	玄都弘教至道披雲真人宋君之墓	不詳	?	墓主:宋德方	永楽宮呂祖墓	鑲嵌. 上部欠.			二晋運27[29]	

表4 永済市

1	麻秉聳世襲功德碑	皇統九年	1149/**/**		虞鄉鎮呉閻村南窯上自然村	立石・螭首・亀趺.			二晋運31[20];文図晋1049	
2	大宋河中府中条山万固寺重修碑銘并序	大定九年五月上旬有三	1169/05/03?	行太理評事監河中府都塩税院事…(撰者?)	蒲州鎮鹿峪村万固寺大雄宝殿址	横倒し. 額題「勅賜万固寺碑」.			古蹟志208;二晋運31[21]	
3	河中府万固寺爽心亭碑	泰和三年六月十五日	1203/06/15	路鐸記;許右書	蒲州鎮鹿峪村万固寺薬師洞殿前	横倒し. 下部欠.			三晋運32[22]	
4	普救寺鶯鶯故居碑	泰和四年	1204/**/**	王仲道(撰?)	普救寺鶯鶯故居	立石. 1986年の重建時に出土.		河東百19	三晋運55[3];戯文物220[B11]	河東百426-428
5	維大元河中府新城築韓公政卿政素号法忍歴過十願実迹事記	致和元年歳次戊辰夏四月日	1328/04/**		蒲州鎮鹿峪村万固寺薬師洞殿前	立石.			三晋運32[25]	

表5 稷山県

1	段楫預修墓記	大定二十一年四月	1181/04/**		稷山金墓博物館	地下墳墓入口に拓本写真. 原碑は第七墓室(非公開)に現存.		山西省考古研究所1983:52		三戯物[191];山西省考古研究所1983:51-52
2	修塔維那最上福田姓名真像伝于不朽之碑	明昌二年八月二十八日	1191/08/28		県博物館(青龍寺)碑林	二基一組. 碑林の壁に立てかけ. 城関鎮従善寺塔内から移管.			三晋運235[10]	
3	大金故武威段公墓表	泰和二年四月二十日	1202/04/20	墓主は段季良;李愈撰;裴国器書丹并篆額.	城関鎮平村段氏墳地	立石・螭首・亀趺. 額題「金故段公墓表」.			三晋運230[71];山右22;光西通95	山右22;乾稷8;同稷8
4	大金故中奉大夫前華州防御使兼提挙学校事護軍武威軍開国侯食邑一千戸食実封一百戸致仕段公墓表	泰和二年四月二十日	1202/04/20	墓主は段鐸. 王□□書;張[万公]撰	城関鎮平村段氏墳地	立石・螭首・亀趺. 額題「金防禦段公碑」.			寰宇10;攈古16;三晋運230[72];山右22;山西調;続授跋11;光西通98	山右22;乾稷8;同稷8
5	中奉大夫護軍武威□□段公[墓表]	金代?		墓主は段矩.	城関鎮平村段氏墳地	立石・螭首・亀趺. 額題「金中奉段公碑」.			光西通95	山右22

ID	碑名	年月日	西暦年月日	関連人物	現存地	立石情報	拓本所蔵	碑影・拓影	著録・目録・考証	移録・研究
6	仏閣清涼院碑銘	大徳十一年	1307/**/**		城関鎮寺後窯村大仏寺西碑衙	立石.			三晋運230[74];山西調	
7	参政姚公諡議	至順四年月	1333/**/**	劉致議;張	県博物館(青龍寺)碑林	立石. 額題「大元忠肅姚公諡議」. 城関鎮南陽村蘇文保家から移管.			三晋運235[11];山西調;文図晋1115;光西通98	山右34
8	大元故通奉大夫参知政事大興府尹贈正奉大夫河南江北等処行中書省参知政事護軍追封平陽郡公諡忠肅姚公神道碑并序	元統元年歳在癸酉三月十三日	1333/03/13	虞集撰;男侃立石;茅紹之模刻;鄭百通成造	県博物館(青龍寺)碑林	立石・螭首・亀趺. 碑陽・碑陰・左右両碑側に刻字. 路村郷路村庄から移管.	国各1431;山省図	北拓49-151;山碑碣294	攈占19;山通文936;山西文〔3912〕;三晋運235[12];山西調;文図晋1111;光西通96;民新絳9	河東百106-133;山右34;乾穆8;同穆8;乾直絳14
9	絵飾仏像之記	至正十四年冬至日	1354/**/**	元斉魯・梁応植・咬住・劉巨源・也先帖木児	城関鎮寺後窯大仏寺西碑廊	立石. 碑陰「祖師関々老人」題名.			三晋運231[77];山西調	
10	不明(公文碑)	元代?			県博物館(青龍寺)碑林	冒頭は「皇帝聖旨冀晋寧路絳州穆(山県欽奉詔旨」. 他の碑刻と共に平積み.				

表6 新絳県

1	復建州衙南門記	大定二十三年八月二十三日	1183/08/23	張□撰;韓二・完顔二・劉之才・姚咎・孟済・張二立石.	龍興寺(県博物館)	立石. もと州治儀門内東側にあり. 額題「絳州復建州衙南門記」.			三晋運213[12];山西調;戴文物240[BII4];民新絳9	山右21
2	故鎮国上将軍絳州節度使劉公神道碑銘	至元三年	1266/**/**	王利用撰	城関鎮侯庄村南墓地	立石. 摩滅厳重.			三晋運207[26];文図晋1098	
3	絳州重修文宣王廟碑銘	至元十三年五月乙未朔	1276/05/01	王佐立石	龍興寺(県博物館)	立石. 下部剥落. もと文廟にあり. 碑陰は宋大中祥符5年(1012)「御製賛玄聖文宣賛并加号詔」.			三晋運213[14]	
4	勅賜靖[応]真人道行碑	至元二十六年三月[清明日]	1289/03/**	李槃奉勅撰	龍興寺(県博物館)	立石. 下部剥落.			山通文934;山西調	山右27;陳道1120-22
5	絳州重刊碧落碑文	[至正三年]	1343/**/**		龍興寺(県博物館)	ID1の碑陰. もと県城南門外にあり.			三晋運213[15];文図晋1100	

ID	碑名	年月日	西暦年月日	関連人物	現存地	立石情報	拓本所蔵	碑影・拓影	著録・目録・考証	移録・研究
6	三官大帝聖像(額題)	元代?	?		城関鎮旧胡蘆廟(現新楽水暖商会)内北墻壁	鑲嵌, 摩滅により額題以外は判読不能. 年代比定は[三晋運]による.			三晋運208[31]	
7	彭城劉氏世系之図	不詳	?		城関鎮侯庄村南墓地	ID2の碑陰.			文図晋1098	
8	二□真人□二二図	不詳	?			ID4の碑陰.				

表7 万栄県

1	蒲州栄河県創立承天效法厚徳光大后土皇地祇廟像図石	天会[乙]巳歳上元日	1137/01/15		廟前村后土祠献殿	鑲嵌. 明嘉靖年間に重刻.	山師大	后土祠122	攈古16;山師戴449[2];文図晋1089;万栄638	
2	尚書礼部牒	大定四年十二月日	1164/12/**	発給先:正覚禅院	漢薛郷西景村第7組学校西	ID3の上截.				
3	勅賜正覚禅院碑	大定十年歳次庚寅閏五月一日	1170/05/01	維那頭王文徳・王清・陳進・楊言・雷安・薛従・張順・景□;住持僧小師果円;后稷石匠薛□顕刊	漢薛郷西景村第7組学校西	校門前に横倒し. 上下二截に分かれ, 上截はID2.			三晋運90[9];山通文953;文図晋1090	
4	栄河建胡壁堡鎮崇聖禅院塔記	大定十八年三月一日	1178/03/01		栄河鎮北辛庄崇聖禅院塔壁東面2層外面	鑲嵌.			三晋運90[10]	
5	□□□録司帖塔銘	大定十八年正月二十七日(記?);三月十五日(立石)	1178/03/15	管□□録判官…;管内都僧録釈…	栄河鎮北辛庄崇聖禅院塔壁	鑲嵌.			三晋運90[11]	
6	舞庁石□	至元八年三月初三日	1271/03/03		南張郷太趙村稷王廟(正殿東側)墻壁	鑲嵌.	山師大	山神劇137;戯文物32	三晋運90[12];山西文[3897];山師戴446[1];文図晋1087;戯文物220[B12];万栄638	三戯物[221];山神劇138
7	万泉県南里村天慶観寧虚真人卯金氏道行之碑	至元十七年歳在庚辰九月望日	1280/09/15	何志淵撰;寧道真書;高善…篆	高村郷南里村小学校校庭	立石. 亀趺.			三晋運90[13];山通文953;文図晋1091;万栄638	

ID	碑名	年月日	西暦年月日	関連人物	現存地	立石情報	拓本所蔵	碑影・拓影	著録・目録・考証	移録・研究
8	元鎮西総戍大元帥呉信墓表	[至元]十七年歳次庚辰二月清明日	1280/02/**		通愛村内路旁	立石. 題額は後世のもの. 碑陽「元鎮西総戍大元帥呉公神道」「大清道光十四年十月立」. 碑陰は後世(道光十四年?)における碑陽の摸刻か. 光華郷丁村から移管.			三晋運90[14];山西調;文図晋1086;光西通96	山右26
9	河中府万泉県解店重修岱嶽廟碑	大徳癸卯八月望日	1303/08/15	高凝撰;宋渤篆;楊述祖書	県博物館(東嶽廟)	立石・螭首・亀趺. 額題「重修岱嶽廟碑」. 碑陰:助緑者名と寄進額. 解店鎮岱嶽廟から移管.	山師大		三晋運100[4]	万輿7
10	秋風辞	大徳丁未年中秋日	1307/08/15	光宅董若沖敬□;華安真子席□寧	宝鼎郷廟前村后土祠秋風楼内三楼	鑲嵌.		河水利;山碑碣270;后土祠115	三晋運90[16];山通文934;山西調;文図晋1089;光西通96;万栄638	河東百429-432;河水利66;山右30;后土祠115
11	弘教大師贊公塔銘	至治二年歳次壬戌六月十五日	1322/06/15	薛趙寺詮書	南張郷太趙村小学校校内	旧普照寺和尚塔壁に鑲嵌.			三晋運90[17]	
12	施縁功碑	至正十四年五月初三日	1354/05/03		県博物館(城関東嶽廟)内飛雲楼	飛雲楼内に横倒し. 西景村岱嶽廟から移管.	山師大	山神劇120	三戯文1009;山師戯443[1];山戯曲133[24];文図晋1091;戯文物220[B13]	三戯物[224];山神劇120

表8 河津市

1	大定二十一年公拠	大定二十一年二月初一日	1181/02/01	受給者:恵勝	市博物館	ID2の左碑側.				
2	移修福聖寺記	大定二十一年十月	1181/10/**		市博物館	立石. もと清潤鎮清潤村泰山廟にあり. 額題「福聖寺額」, 左碑側にID1, 右碑側に寺産, 碑陰に「嘉靖三十六年歳次丁巳三月甲辰吉日重修中仏殿并塑絵布施題記」.			三晋運256[6];文図晋1057	

ID	碑名	年月日	西暦年月日	関連人物	現存地	立石情報	拓本所蔵	碑影・拓影	著録・目録・考証	移録・研究
3	大禹廟住持姜善信碑	至元二十二年	1285/**/**		市博物館	立石. もと清潤鎮龍門村西河畔にあり.	山師大		三晋運256[7];山師戲433[1];光西通96	
4	石砧銘文	至元二十九年	1292/**/**	石匠郷守優	陽村郷連伯村高祺廟		山師大		山師戲429[1]	
5	懐遠大将軍楊公之墓	至元三十年	1293/**/**	墓主:楊勝;三孫男楊遷・楊賢・楊礼[立石].	清潤鎮侯家庄村郊外楊氏墓地塔壁	墓塔前に立石. 下部埋没.			三晋運252[3];文図晋1053	
6	故河津鎮西帥史公墓碣銘	泰定乙丑年九月壬戌	1326/09/21	墓主:史遷;段菊軒先生撰;段輔書丹并題額;史恒□立石.	樊村鎮于潤村韓家院東史公墓地	立石.			三晋運252[6];山通文953;山西調;文図晋1054;光西通96;嘉河津2;光河津2	山右33
7	□修上生院記	至正十七年	1357/**/**		市博物館	立石. 碑陰には寄進者の題名.				

表9 韓城市

1	円覚寺塔修建宝塔碣	大定十三年癸巳記之	1173/**/**		金塔公園金塔基台東壁	鑲嵌. 碑名は編者による.			文図秦508	
2	円覚寺塔修建宝塔碣	大定十三年歳次…	1173/**/**		金塔公園金塔基台東壁	鑲嵌. 下部は剥落. 碑名は編者による.			文図秦508	
3	重脩漢太史公墓	大定己亥清[明後三日]	1179/04/**	[趙振撰];稷山石匠…匠□立王正;化主住持…芝川□場本県韓楽□□定立石	司馬遷祠内司馬遷墓塚東北壁	鑲嵌.			関金7;寰宇10;攈古16;文図秦506;陝金石24;乾韓城16;乾同州55;咸同州26	
4	[大禹？]廟記(額題)	至正十四年仲夏(記？)	1354/05/**	李克敏謹記;孫徳明刊. [関金]によれば裴時静行書;百嘉納篆額	文廟(市博物館)明倫堂内	立石. 方形碑座. 上部破損. 碑面は摩耗・剥落. 首題は判読不能. [関金]は"修禹廟碑"と著録する. 題記「宣徳八年法正天心順…民].			関金8;乾韓城16;乾同州55;咸同州26	

ID	碑名	年月日	西暦年月日	関連人物	現存地	立石情報	拓本所蔵	碑影・拓影	著録・目録・考証	移録・研究
表10 邵陽県										
1	1318年邵陽県光国寺アユルバルワダ聖旨	馬児年四月二十三日(発令);延祐六年八月吉日(立石)	1318/04/23	発令者:アユルバルワダ;発令地:大都;発令対象者:奉元路邵陽県光国寺その他諸寺の福講主ら;明慧普慈大師了常立石;趙珪刊;白克中訳書丹并額	城関鎮西街光国寺址碑楼	立石. 上截パクパ字モンゴル語・下截直訳体漢語合璧. 方形碑座. 摩耗が進んでいる. 攫古18に「光国寺聖旨碑陰 □書」とあるように, 碑陰にも刻文があるようだが, 摩耗が進んでおり, 判別は困難である.	北大	CHAVANNES 1908: pls.25-26[55];呼蘆八2004: pls.17(1)-17(2);照八匯1991: 72[13]	関金8;寰宇11;攫古18;文図奏566;咸同州26;松川2007: 145[32]	蔡台75[72];CHAVANNES 1980: 408-410[55];馮台51-52[31];呼蘆八184-195[17];LIGETI 1972: 62-66[9];陝金石28;照八匯71-75[13];山崎1954: 111-119;祖白130-131[91]

参考文献

略号表

北　拓：北京図書館金石組（編）1990 『北京図書館蔵中国歴代石刻拓本匯編』全100冊，鄭州：中州古籍出版社
蔡　白：蔡美彪 1955 『元代白話碑集録』北京：科学出版社
陳　道：陳垣（編）；陳智超・曾慶瑛（校補）1988 『道家金石略』北京：文物出版社
古蹟志：水野清一・日比野丈夫 1956 『山西古蹟志』京都大学人文科学研究所研究報告，京都：中村印刷
関　金：畢沅（撰）『関中金石記』（石新2―24）
河東百：王大高（主編）2002『河東百通名碑賞析』太原：山西人民出版社
河水利：張学会（主編）2004『河東水利石刻』太原：山西人民出版社
河塩碑：南風化工集団股份有限公司（編）2000 『河東塩池碑匯』太原：山西古籍出版社
呼薩八：呼格吉勒図・薩如拉 2004 『八思巴字蒙古語文献匯編』呼和浩特：内蒙古教育出版社
寰　宇：孫星衍『寰宇訪碑録』（石新1―26）
金萃未：王昶（撰）；羅振玉（刊）『金石萃編未刻稿』（石新1―5）
晋旅勝：孔繁珠（主編） 2001 『山西旅游名勝大辞典』北京：中国旅游出版社
攈　古：呉式芬（撰）『攈古録』光緒21年刊
三戯物：楊太康：曹占梅（編著）2006『三晋戯曲文物考』（上・下）民俗曲芸叢書，台北：財団法人施合鄭民俗文化基金会
三晋運：呉均 1998『三晋石刻総目：運城地区巻』太原：山西古籍出版社
山碑碣：山西省考古研究所（編）1997 『山西碑碣』太原：山西人民出版社
山神劇：馮俊傑 2006 『山西神廟劇場考』北京：中華書局，2006
山師戯：王福才（編著）2005 『山西師範大学戯曲博物館館蔵拓本目録』太原：山西古籍出版社
山通文：山西省史志研究院（編）2002『山西通志：文物志』第44巻，北京：中華書局
山西調：王堉昌（等撰）『山西各県名勝古蹟古物調査表』民国20年序石印本
山西文：劉緯毅（主編）1998 『山西文献総目提要』（三晋文化研究叢書）太原：山西人民出版社
山戯曲：馮俊傑（等編著）2002 『山西戯曲碑刻輯考』北京：中華書局
山　右：胡聘之（撰）『山右石刻叢編』（石新1―20～21）
陝金石：武樹善（撰）『陝西金石志』宋伯魯（等編）『續修陝西通志稿』巻135-166；石新1-22
文図晋：国家文物局（主編） 2006 『中国文物地図集：山西分冊』上中下，北京：中国地図出版社
文図秦：国家文物局（主編）；陝西省文物事業管理局（編制） 1988 『中国文物地図集：陝西分冊』西安：西安地図出版社
石新1：1997 『石刻史料新編』第1輯，台北：新文豊出版公司
石新2：1982 『石刻史料新編』第2輯，台北：新文豊出版公司
石新3：1986 『石刻史料新編』第3輯，台北：新文豊出版公司
授続跋：武億（撰）『授堂金石文字続跋』（中州文献叢書）鄭州：中州古籍出版社，1993
戯文物：東文明2001『20世紀戯曲文物的発現与曲学研究』北京：文化芸術出版社
照八匯：照那斯図 1991 『八思巴字和蒙古語文献II文献匯集』東京：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
中神劇：東文明 2005 『中国神廟劇場』北京：文化芸術出版社

祖　白：祖生利 2000 『元代白話碑文研究』北京：中国社会科学院研究生院博士学位論文

【以下，地域順に配列】

成西通：李侃・胡謐（纂修）［成化］『山西通誌』山西大学図書館蔵民国22年影鈔明成化11年刻本（『四庫全書存目叢書』史部・第174冊所収）
雍西通：覺羅石麟（修）・儲大文（纂）［雍正］『山西通志』雍正12年刊本
光西通：曽国荃（等修）・王軒（等纂）［光緒］『山西通志』光緒18年刊本
乾解運：言如泗（修）；呂灝（等纂）『解州安邑県運城志』乾隆29年刊解州全志本
光解州：馬丕瑤・魏象乾（修）；張承熊（纂）［光緒］『解州志』光緒7年刊本
民安邑：趙祖抃・周毓瑄（修）；景定成（纂）［民国］『安邑県志』民国23年修稿本
康蒲州：侯康民（修）；賈濚（等纂）［康熙］『蒲州志』康熙8年刊本
順平陽：傅淑訓（修）；曹樹聲（等纂）［順治］『平陽府志』万暦43年跋刊順治2年修本
民臨晋：俞家驥（等修）；趙意空（等纂）［民国］『臨晋県志』民国12年排印本
乾芮城：言如泗（等纂修）；莫溥（等纂修）［乾隆］『解州芮城県志』乾隆29年刊解州全志本
民芮城：張亘（等纂修）；蕭光漢（等纂修）［民国］『芮城県志』民国12年鉛印本
乾　稷：韋之瑗（修纂）［乾隆］『稷山県志』乾隆31年刻本
同　稷：沈鳳翔（修）；鄧嘉紳等（纂）［同治］『稷山県志』同治4年刻本
乾直絳：張成德（修）；李友洙（等纂）［乾隆］『直隷絳州志』乾隆30年刊本
民新絳：徐昭儉（修）；楊兆泰（等纂）［民国］『新絳県志』民国18年排印本
万　栄：万栄県志編纂委員会（編）1995 『万栄県志』北京：海潮出版社
万　輿：何栄（修）；馮文瑞等（纂）『万泉県輿地志』民国7年石印本
后土祠：樊永福（著）2005 『万栄后土祠』北京：中国撮影出版社
嘉河津：沈干鑑（修）；王政・牛述賢（纂）［嘉慶］『河津県志』嘉慶20年刊本
光河津：茅丕熙（等修）；韓秉鈞（等纂）［光緒］『河津県志』光緒6年刊本
乾韓城：傅應奎（修）；銭坫（等纂）［乾隆］『韓城県志』乾隆49年刊本
乾同州：張奎祥（修）；李之蘭（等纂）［咸豊］『同州府志』乾隆6年刊本
咸同州：文廉（修）；蔣湘南（纂）［咸豊］『同州府志』咸豊2年刊本

文献目録

【中文】

蔡美彪 1986 「河東延祚寺碑訳釈」『蒙古史研究』2：45-56+1pl.
何修齢 1957 「韓城県所見的元代建築及其基本特徴」『文物参考資料』11：54-58.
山西省考古研究所 1983 「山西稷山金墓発掘簡報」『文物』1983-1：45-63+pls. 2-5
山西省文物管理委員会・考古研究所 1960 「山西省芮城永楽宮旧址宋徳方・潘徳沖和“呂祖”墓発掘簡報」『考古』1960-8：22-25+pls. 4-9
張家泰 1981 「元代匠師劉庭秀及其建築作品考察」『中原文物』1981-2；河南省古代建築保護研究所（編）1999『古建築石刻文集』北京：中国大百科全書出版社：522-525

【欧文】

CHAVANNES, Éd. 1904/1905/1908 “Inscriptions et piéces de chancellerie chinoises de l'époque mongole”, *T'oung Pao*, sér.2, V：357-477 / VI：1-42 / IX：297-428 + 30pls.
LIGETI, L. 1972 *Monuments en écriture 'phags-pa. Piéces de chancellerie en transcription chinoise*, Budapest：Akadémiai Kiadó

【日文】
飯山知保・井黒忍・船田善之 2002 「陝西・山西訪碑行報告（附：陝西・山西訪碑行現存確認金元碑目録）『史滴』24: 151-184
井黒　忍・船田善之・飯山知保 2005 「山西・河南訪碑行報告」『大谷大学史学論究』11: 117-156
井黒　忍 2009 「清濁灌漑方式が持つ水環境問題への対応力－中国山西呂梁山脈南麓の歴史的事例を基に－」『史林』92-1:36-69
高橋文治 1995 「モンゴル時代全真教文書の研究（一）」『追手門学院大学文学部紀要』31: 168-150
堤　一昭 1992 「元代華北のモンゴル軍団長の家系」『史林』75-3: 32-67
船田善之 2004 「2003年河南・山西訪碑行報告」『13, 14世紀東アジア史料通信』2：12-18
船田善之・井黒忍・飯山知保 2004「滎陽・沁県・交城現存確認金元碑目録」『13, 14世紀東アジア史料通信』2: 19-22
船田善之・飯山知保・井黒忍 2008 「中国山西省北部における金元石刻の調査・整理と研究」『三島海雲記念財団研究報告書』平成19年度（第45号），東京：三島海雲記念財団 ：103-107
古松崇志 2000 「元代河東塩池神廟碑研究序説」『東方学報（京都）』72:347-379
松川　節 2007 「13～14世紀モンゴル文碑刻リスト（増補版）」森田憲司（編）『13, 14世紀東アジア諸言語史料の総合的研究：元朝史料学の構築のために』日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究（B）研究成果報告書 ：139-153
山崎　忠 1954 「1318年の八思巴字蒙古語碑文解読－陝西郃陽県光国寺碑－」『言語研究』26・27: 111-119

【附記】本目録は平成18年度文部科学省科学研究費補助金による研究成果の一部である。